



横濱汽船
蒸気車道海

第50回

全日本杖道大会

日時 令和5年 10月 15日 日 午前9時15分開会

場所 横浜武道館

主催：公益財団法人全日本剣道連盟

主管：神奈川県剣道連盟 後援：神奈川県 横浜市

剣道の理念

剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である

剣道修錬の心構え

剣道を正しく真剣に学び
心身を錬磨して旺盛なる気力を養い
剣道の特性を通じて礼節をとうとび
信義を重んじ誠を尽して
常に自己の修養に努め
以って国家社会を愛して
広く人類の平和繁栄に
寄与せんとするものである

昭和50年3月20日制定
全日本剣道連盟

剣道指導の心構え

(竹刀の本意)

剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。

剣道は、竹刀による「心気力一致」を目指し、自己を創造していく道である。「竹刀という剣」は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。この修錬を通じて竹刀と心身の一体化を図ることを指導の要点とする。

(礼法)

相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。

剣道は、勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。お互いを敬う心と形(かたち)の礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣知愛」の輪を広げていくことを指導の要点とする。

(生涯剣道)

ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

剣道は、世代を超えて学び合う道である。「技」を通じて「道」を求め、社会の活力を高めながら、豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していくことを指導の目標とする。

平成19年3月14日制定
全日本剣道連盟

御 挨 拶

公益財団法人 全日本剣道連盟

会 長 網 代 忠 宏



さわやかな秋空の下、節目となります第50回全日本杖道大会が、全国から精鋭選手を迎えここ横浜武道館において開催されるに当り、ご挨拶申し上げます。皆さまのご協力により大会が開催できますことに深く感謝申し上げます。

杖道は、今から約400年前に夢想権之助勝吉が筑前太宰府の宝満山に参籠し、神意を受けて神道夢想流杖術として創始したものとされており。杖は、打つときは刀となり、突くときは槍となり、また払うときは薙刀となる、千変万化の動きを特色とし、武術の粋が取り入れられているといわれ、その理合は現代剣道に通じるところが多く、杖道の普及発展は誠に意義あるものといわねばなりません。

全剣連では昭和43年、神道夢想流杖道形のうち、12本を選んで全剣連杖道形を制定しました。更に、平成15年には、全日本剣道連盟杖道の解説書を大幅に改訂し、理解し易いものとしたしました。全剣連は杖道の普及振興のため、中央・地区講習会を開催しており、稽古会も各地で開催され、益々盛況を呈しております。

杖道人口を見ますと、昨年1年間で232名の方が初段に合格されております。厳しい状況ではございますが、これからも有段者が増加することを期待しております。

本大会は、杖道初段より杖道七段の段別試合のほかに、個人演武も実施されますが、全日本大会に相応しい内容になると確信しております。

選手の皆様は日ごろの鍛錬の成果を競い合い、体得した技倆と気魄を発揮されると共に、この大会が、各地より参集された選手各位の親睦を深める場ともなり、杖道のより一層の発展に寄与するものとなることを希望します。

終わりに、本大会の開催に当たり主管の神奈川県剣道連盟をはじめ多くの運営に当たられる関係各位に対し、心から感謝の意を表し挨拶といたします。

御 挨 拶

神奈川県剣道連盟

会 長 小 林 英 雄



第50回全日本杖道大会を14年振りに神奈川県においてが開催されることになりました。神奈川県剣道連盟にとりまして、全国より選抜されました選手・役員の皆様方を心から歓迎いたします。

斯道の発展を願う関係者の熱意によりまして益々充実・発展を遂げ、その伝統と実績に対しまして、ご尽力を賜りました諸先生方に改めて深く敬意と感謝の意を表する次第です。

ここ横浜におきまして、全国から集まりました選手同士の友好を深めることは勿論ですが時代が変わっても杖道の本質は全く今までと変わることはありません。杖道に魅力を感じ、切磋琢磨されている選手の皆様が一時的に好適手と真剣な勝負をするということは、大きな財産となるはずです。

打ち掛かる太刀を相手に突かば槍、払えば薙刀、持たば太刀、杖はかくにも外れざりけりと伝書にもありますように、太刀、槍、薙刀の技に独自の動きを加味した誠に玄妙多彩な武道を今日は拝見させて頂きたいと思っています。

鎌倉時代の道元禅師先生の言葉で「覚(かく)知(ち)にまじわるは 証(しょう)則(そく)にあらず」と言っています。現代語に訳すると（意識したものに本物はない）ということとです。

選手のみなさん“無の境地”で戦ってください。

御 挨 拶

神奈川県知事

黒 岩 祐 治



「第50回全日本杖道大会」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地より神奈川県へお越しいただいた選手並びに関係者の皆様を心から歓迎いたします。

歴史ある武道の一つである「杖道」は、老若男女や体格等の区別がなく幅広い層の方々が楽しむことのできる武道・スポーツです。また、礼儀や信義、誠実、忍耐等の精神・社会生活に必要な協調性も養うことができるなど多くの効果がみられることから、生涯スポーツ社会の実現に重要な役割を果たすものとして将来にわたって普及、啓発、継承していくことが求められていると思います。

こうした中、本大会が開催されますことは、多くの方に「杖道」の魅力を知っていただく貴重な機会になると思います。また、本県が目指す誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、健康寿命の延伸などいのち輝く活力に満ちた健康長寿社会の実現に大いに寄与するものと期待しております。

大会に参加される皆様には、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮し、悔いのない素晴らしい演武を披露していただきたいと思います。そして、互いを高め合ってきた仲間や本大会で出会った仲間とさらに絆を深め、思い出に残る実り多い大会にしていきたいと思います。

ここ神奈川は温暖な気候に恵まれ、西部には箱根・丹沢の山々が連なり、南部は相模湾などの海に面している、豊かな自然に囲まれた美しいところです。また、横浜、鎌倉、箱根といった、国内ばかりでなく海外からも多くの人々が訪れる観光地が多くありますので大会の合間にぜひ本県に親しんでいただき、再びお越しいただけることを心から願っております。

結びに、大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、大会の御成功と選手の御健闘を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

御 挨 拶

横 浜 市 長

山 中 竹 春



「第50回全日本杖道大会」の開催を心よりお慶び申し上げます。

全国からお越しの皆様、ようこそ横浜へお越しくございました。横浜市を代表して歓迎いたします。

杖道は、日本古来の武道として伝承され、技術の継承はもちろんのこと、礼節を重んじる武道として知られており、心身の健康増進及び本市のスポーツ振興に大きく寄与していただいています。

武道の「道」の字には、技や術を磨くことによって人格そのものを鍛え高めるという意味が込められており、武道の試合が「礼に始まって礼に終わる」と言われるのも、そのためだと伺っております。武道は日本の伝統文化であり、非常に有意義なものです。本市では、本市の公共施設で初めてとなる、本格的な武道場を持つ横浜武道館を令和2年に開館しました。今後も、本市のより一層の武道振興に貴会のお力添えをいただければ幸いです。

3年以上にわたるコロナ禍を経て、スポーツを「する」「みる」ことが、人に与えるパワーの大きさを、改めて強く感じています。横浜市は、このスポーツの力を、市民の皆様健康で心豊かな生活、そして横浜の発展につなげてまいります。皆様には、杖道への取組を通じて、スポーツ振興に引き続きのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

むすびに、本大会の開催に御尽力されました、公益財団法人全日本剣道連盟をはじめ関係者の皆様に深く敬意を表しますとともに、本大会の御成功と皆様のますますの御健勝を祈念いたしまして御挨拶いたします。

杖道とは

◎杖道とは・・・。

杖道は古来から伝わる武道のひとつです。長さ128センチ、直径2.4センチの白櫨の丸い棒（杖）を武器とし、打ち掛かる太刀を相手に「突かば槍、払えば薙刀、持たば太刀、杖はかくにもはずれざりけり」と伝書にもありますように、太刀、槍、薙刀の技に独自の動きを加味した誠に玄妙多彩な武道です。見た目には只の杖に過ぎませんが、正面はもとより左右から繰り出す杖先の一撃には予測を超えた鋭さが秘められています。

杖道の稽古では、紺または白の剣道着および袴を着用しますが防具は一切使用しません。そのため普段の稽古は立合の形だけで行います。打ち込んでくる太刀を捌き、すかさず杖で太刀の動きを制するというもので、形稽古とはいえ真剣勝負に近い稽古方法といえます。

◎全剣連杖道の起源は・・・。

私たちが日頃練習している杖道は、全日本剣道連盟が制定した基本12本と立合の形12本です。杖道が全剣連に加盟したのは昭和31年（1956年）のことですが、その後12年間の研究期間を経て昭和43年（1968年）に全剣連制定杖道が誕生しました。さらに平成13年（2001年）から2年間にわたって指導上の留意点を付記した本格的な見直し作業を行い平成15年（2003年）に改訂版が完成しました。その後、一部修正を行い、平成20年6月に現在の全剣連杖道（解説）となっております。

全剣連杖道の原形は、約四百年前に夢想権之助勝吉という人によって創始された神道夢想流杖術です。夢想権之助は剣の達人でしたが、あるとき宮本武蔵と試合をして敗れたため、武蔵を破るべく筑前太宰府の宝満山に籠って創意工夫の結果編み出したのが、神道夢想流杖術です。口承では杖をもって武蔵の十字留を破ったともいわれています。神道夢想流杖術は明治になるまで福岡を中心に継承されてきましたが、昭和5年（1930年）に清水隆次先生が福岡から上京、翌6年警視庁の武道講師（嘱託）となり、その後昭和31年に全剣連に加入、現在の全国的普及の礎をつくりました。

◎杖道の試合・・・。

本大会では、初段から7段まで段別に指定された全剣連杖道の立合の形6本を演武します。試合は打太刀と仕杖がペアを組み、紅白2組のペアが演武を競い合います。どちらの組が優れているかの判定は杖道試合審判規則・同細則によりますが、初段から3段までは礼法・着装はもとより解説書に則した正しい姿勢と正確な打突、充実した氣勢と気迫の籠った気合、目付け、残心などが勝敗のポイントになります。4、5段クラスになりますと、さらに錬熟度が求められます。正確な切り付けと刃筋、間と間合、杖の用法、気・杖（剣）・体の一致など打太刀の技倆と仕杖の技前が相対的に判断されることになります。6、7段ともなると、一挙手一投足が武道としての合理性を備え、理に合った攻防が演武の形を離れて真剣勝負を彷彿させるだけの迫力を有することが大切とされます。云い換えれば、いかに一瞬一瞬に己れの全身全霊を尽くすかということが大切なわけです。

大会次第

◇開 会 式

9:15～9:45

1. 役員・選手整列
2. 国 歌 斉 唱
3. 会 長 挨 拶
4. 閉 式

◇演 会 技

9:55～16:44予定

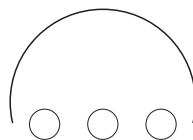
1. 初段～四段の部 一回戦から準決勝
2. 昼食（12:00～予定）
3. 五段～七段の部 一回戦から準決勝
4. 個 人 演 武（全剣連杖道の部）
5. 個 人 演 武（古流の部）
6. 四・五・六・七段決勝

各段試合順序および試合場

第二試合場	初段	9～16	第四試合場	二段	10～19
	四段	16～31		三段	16～30
	五段	12～21		五段	32～42
	六段	12～21		六段	33～43
	七段	10～19		七段	29～37
第一試合場	初段	1～ 8	第三試合場	二段	1～ 9
	四段	1～15		三段	1～15
	五段	1～11		五段	22～31
	六段	1～11		六段	22～32
	七段	1～ 9		七段	20～28

(注) 1 初・四段の準決勝は、第1・2試合場で実施
 二・三段の準決勝は、第3・4試合場で実施
 五段の準決勝は、第2・3試合場で実施
 六段の準決勝は、第2・4試合場で実施
 六段の準決勝は、第1・3試合場で実施

本 部 席



◇閉 会 式

17:00～17:20予定

1. 役員・選手集合
2. 表 彰
3. 挨 拶
4. 役員・選手退場

(敬称略、順不同)

令和5年9月1日現在

[illegible]

第50回 全日本杖道大会審判団

審 判 長 安 丸 進

第 一 試 合 場 審判主任 藤 崎 興 朗

村 上 直 隆 (宮 城)	本 田 保 (広 島)	安 部 恵 一 (神奈川)
------------------	---------------------------	------------------

上 田 花代子 (埼 玉)	阿 部 修 (東 京)	安 部 幸一路 (大 分)
------------------	---------------------------	------------------

第 二 試 合 場 審判主任 釣 賀 敏 郎

福 田 博 文 (福 岡)	神之蘭 文 男 (神奈川)	森 井 美津男 (東 京)
------------------	------------------	------------------

坂 上 亨 (大 阪)	小 野 景 久 (長 野)	三 浦 康 典 (東 京)
---------------------------	------------------	------------------

第 三 試 合 場 審判主任 神 代 孝 一

椿 二三夫 (東 京)	林 映 子 (神奈川)	清 水 勇 二 (東 京)
---------------------------	---------------------------	------------------

太 田 安 昭 (長 野)	鬼 木 正 道 (福 岡)	服 部 知 司 (大 阪)
------------------	------------------	------------------

第 四 試 合 場 審判主任 大 竹 俊 行

村 上 和 雄 (和歌山)	江 藤 友 子 (福 岡)	松 村 勇 造 (兵 庫)
------------------	------------------	------------------

安 田 嘉 一 (神奈川)	力 武 公 平 (東 京)	宮 脇 誠 吾 (広 島)
------------------	------------------	------------------

競 技 係 員

本 部 係 主 任 石 堂 倭 文

放 送 係 主 任 赤 井 あゆみ

賞 状 係 (揮毫) 溝 口 瑤 漣

救 護 係 野見山 延

大 会 記 録 係 石 川 貴久子

受 付 係 主 任 久 田 孝 博

加 藤 康 子

岩 本 光 弘

石 堂 虎太郎

石 田 ゆき子

岩 田 高 明

清 水 裕 子

中 川 靖 弘

斎 藤 嘉 教

青 木 はるみ

佐 野 弘 和

岩 田 みどり

伊 藤 拓 郎

山 口 希世子

高 間 真智子

川 越 津

吉 成 浩 一

西 垣 泰 宏

廣 瀬 裕 美

接 待 係 川 越 和 子

福 田 彩 子

鈴 木 裕可里

警 備 係 主 任 土 屋 智 和

木 原 竜 一

第 一 会 場 係 主 任 小 塚 禮 子

井 関 進 八

田 村 裕一郎

小 川 仁 司

仲 亀 晃 央

第 二 会 場 係 主 任 矢 野 多衛子

安 藤 正 敏

松 尾 博 隆

小 森 和 彦

木 村 礼 司

第 三 会 場 係 主 任 岩 田 善 信

漆 原 潔

大 塚 陽 介

鈴 木 伸

小 野 英 幸

第 四 会 場 係 主 任 時 任 晴 美

佐 藤 勇 治

玉 置 俊 之

関 戸 力

高 田 耕 造

大会要項抜粋

1. 趣 旨

全日本剣道連盟杖道の普及徹底を期すため、日頃の稽古の成果を競い合う大会であり、体得した技倆と気魄を助長させることにある。また各地より参集した選手の親睦を深める場とし、もって斯道のより一層の発展を期すものである。

2. 出場選手資格

(1) 段別個人試合出場者

ア 各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。

イ 本連盟杖道初段、二段、三段、四段、五段、六段、七段受有者であること。ただし、審判員に選ばれた者は、出場できない。

ウ 男子、女子、年齢、職業の制限を設けない。

(2) 個人演武出場者（全剣連杖道の部）

各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。本連盟の杖道錬士六段以上の者。

* 段別個人試合および個人演武の両方に参加することができる。ただし、古流の個人演武との重複申し込みはできない。

(3) 個人演武出場者（古流の部）

各都道府県剣道連盟の登録会員であって、全日本剣道連盟会員規則に適合している者。本連盟の杖道錬士六段以上の者。

* 段別個人試合および個人演武の両方に参加することができる。ただし、全剣連杖道の個人演武との重複申し込みはできない。

3. 試合・審判および試合方法

(1) 全日本剣道連盟、杖道試合・審判規則と同細則、および別紙大会要領により行う。

(2) 初段、二段、三段、四段、五段、六段、七段の7種に分け、段別個人試合（2人1組）を行う。

(3) 試合は、トーナメント方式により行う。

4. 表彰

(1) 初段、二段、三段の上位2組に対し、優秀賞を授与する。

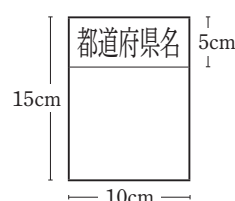
(2) 四段、五段、六段、七段の1位、2位に対し、賞状および賞品を授与する。

(3) 出場者に参加賞を贈る。

5. その他

(1) 段別個人試合および個人演武出場者は、登録の都道府県名および姓を明記した名札を左胸部に付けること。

凡例



黒または紺色の剣道着の場合は、黒または紺色の布地に白字とし、白色の剣道着の場合は、白地に黒字とする。

(2) 当日の申込み受付は行わない。

全日本杖道大会要領

1. 試合方法

(1) あらかじめ2人1組を抽選により、トーナメント方式にて、初段・二段・三段の部は準決勝まで行い、四段・五段・六段・七段の部は1位、2位を決める。

(2) 判定は仕・打交代して勝敗を決める。

(3) 2人1組の選手は、同段位とする。

2. 演武の本数と指定技

(1) 段別個人試合

演武本数は、各段位とも6本とし、指定技は下記のとおりとする。

初段の部	①着 杖	②水 月	③引 堤
	④斜 面	⑤左 貫	⑥物 見
二段の部	①水 月	②引 堤	③斜 面
	④左 貫	⑤物 見	⑥ 霞
三段の部	①引 堤	②斜 面	③左 貫
	④物 見	⑤ 霞	⑥太刀落
四段の部	①斜 面	②左 貫	③物 見
	④ 霞	⑤太刀落	⑥雷 打
五段の部	①左 貫	②物 見	③ 霞
	④太刀落	⑤雷 打	⑥正 眼
六段の部	①物 見	② 霞	③太刀落
	④雷 打	⑤正 眼	⑥乱 留
七段の部	① 霞	②太刀落	③雷 打
	④正 眼	⑤乱 留	⑥乱 合

* 初段・二段・三段の部は、決勝戦を行わない。

* 演武は、① ② ③ ④ ⑤ ⑥の順に行い、前半3本で「仕・打」交代し、後半3本を行う。

(2) 個人演武（全剣連杖道の部）

演武本数は、六・七・八段とも5本とし、仕・打交代せず指定技は下記のとおりとする。

共 通 ①太刀落 ②雷 打 ③正 眼
④乱 留 ⑤乱 合

(3) 個人演武（古流の部）

演武本数は、六・七・八段とも5本とし、技は任意とする。

3. 審判方法

(1) 審判員は、3名を以って構成する。

(2) 勝敗は、3名の審判員の多数決による。

(3) 全剣連杖道「審判上の着眼点」による。

(4) 主審は、試合者が開始線の位置について時、「始め」と宣告して試合を開始させる。

(5) 試合の終了と同時に、審判員は起立し、主審の「判定」の合図により、三者同時に意思表示する。

(6) 主審は、「赤（白）の勝ち……勝負あり」と宣告する。

4. 服 装

(1) 審判員は、剣道着・袴を着用し、名札を左胸部に付けること。

(2) 段別個人試合および個人演武出場者は、剣道着・袴を着用し、名札を左胸部に付けること。

以 上

第50回 全日本杖道大会成績表

令和5年10月15日(日) 於：横浜武道館

【初段の部】優秀賞 2 組

----- () ----- ()

【二段の部】優秀賞 2 組

----- () ----- ()

【三段の部】優秀賞 2 組

----- () ----- ()

【四段の部】

第 1 位

第 2 位

----- () ----- ()

【五段の部】

第 1 位

第 2 位

----- () ----- ()

【六段の部】

第 1 位

第 2 位

----- () ----- ()

【七段の部】

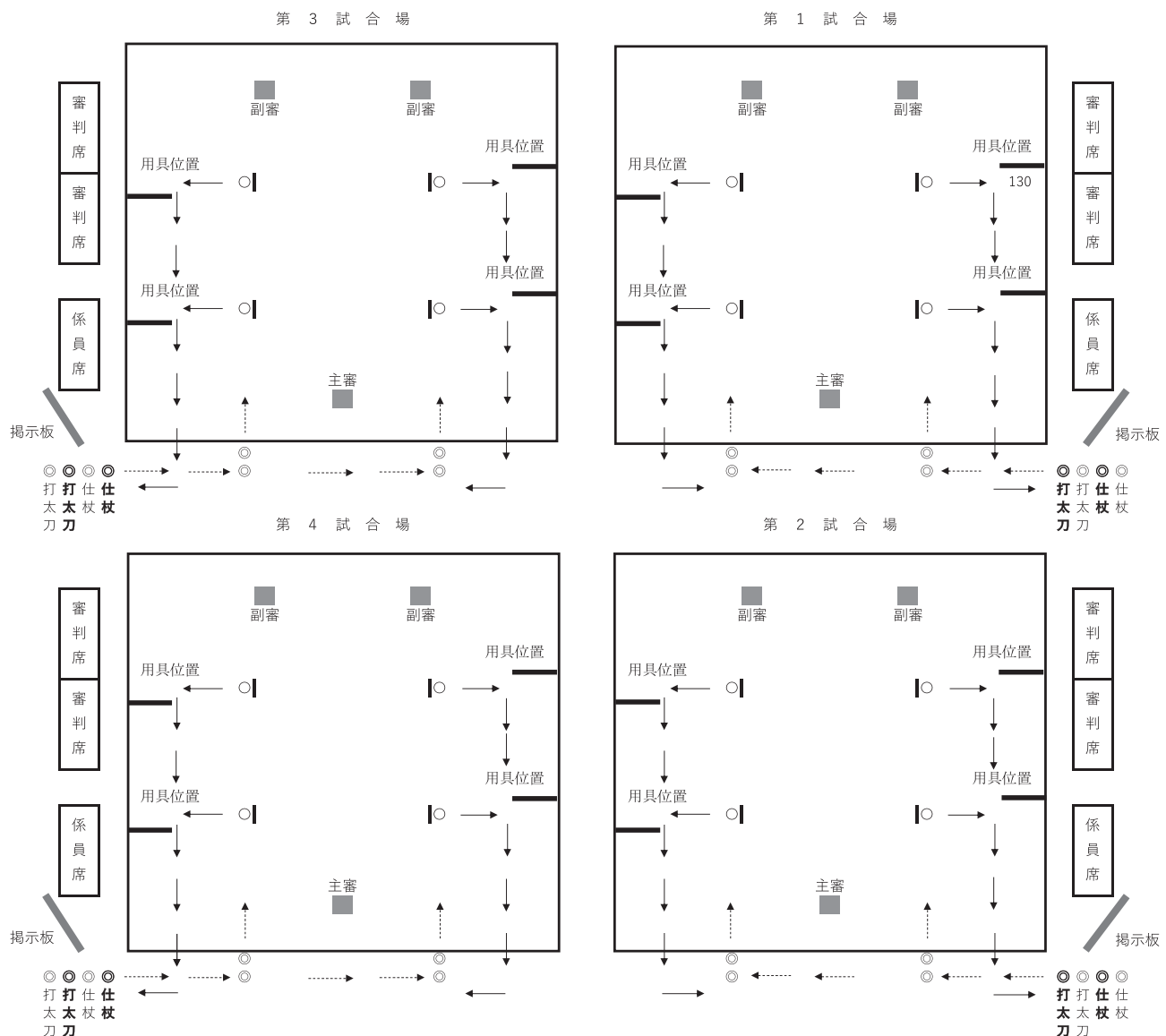
第 1 位

第 2 位

----- () ----- ()

全日本杖道大会における試合者の入退場要領図式

大会役員・審判長席



- 1 試合者は、氏名および赤・白の標識確認等を係員席で行い、係員の指示により赤・白ともに試合場の主審側後ろ、開始線の延長線上外側に位置から、太刀・杖を保持しそれぞれの開始線に進む。
- 2 太刀・杖は用具位置(立合位置五歩後ろの右側)に相手を向いたままさがり、右膝を着いて、会場正面に向かって右側の試合者は太刀を、左側の試合者は杖を置き、床に置かない方の用具を持って開始線に戻り、主審の号令で試合を開始する。
- 3 「仕・打」交代で用具位置にさがり用具を交換して、主審の号令で試合を開始する。
- 4 上図で、○印は、終了した試合者。◎印は、次の試合者。
- 5 次の試合者は、氏名および赤・白の標識確認等を係員席で行い、前の試合終了間際に係員の指示により赤・白ともに試合場の主審側後ろ、開始線の延長線上外側に位置する。
- 6 主審の「赤(白)の勝ち、勝負あり」の宣告と同時に試合終了者は相手を向いたまま五歩さがり用具を保持し退場する。(上図実線矢印)
- 7 試合終了者が退場と同時に次の試合者は開始線の位置に入場して相手と正対し相手を向いたまま五歩さがり用具を置いて開始線に立つ。(上図点線矢印)
- 8 試合者は、試合の開始前と終了後には、掲示板後方において相互の礼(立礼)を行う。

大会等におけるビデオ撮影等について

全剣連が主催する大会、審査会、講習会及びその他の行事（以下「大会等」という。）における写真・動画の撮影及び音声の録音（以下「ビデオ撮影等」という。）並びに撮影した映像及び録音した音声（以下「撮影映像等」という。）の取扱いについては、次のとおりとするほか、各大会等の開催要項で定めるところに従うこと。

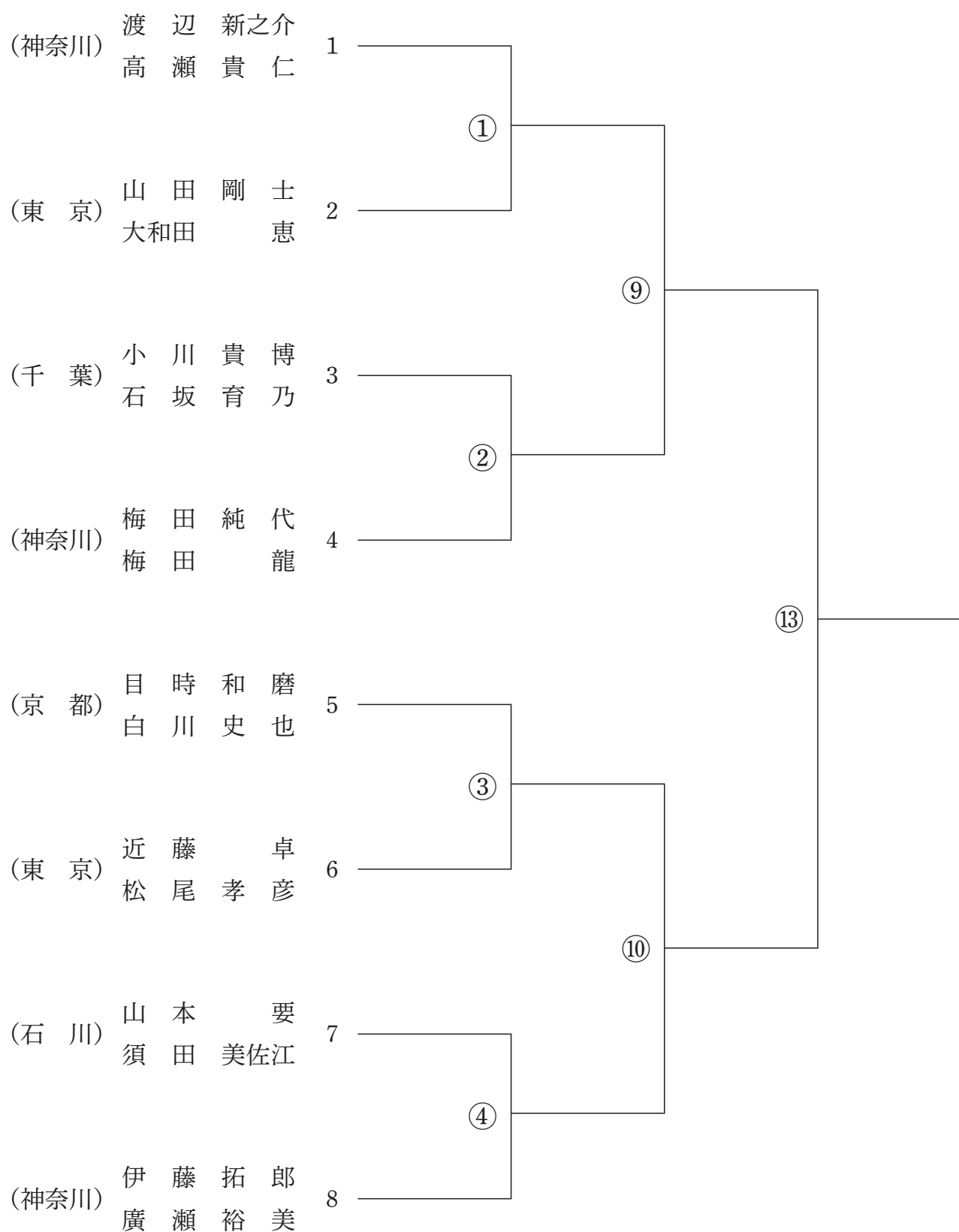
- 1 大会等の会場において、以下の条項に従って個人利用の目的でビデオ撮影等を行うことは差支えないが、営利目的又は不特定多数の者に公開若しくは頒布する目的で、これを行うことは禁止する。ただし、全剣連から許諾を得て行う場合はこの限りでない。
- 2 大会等の会場におけるビデオ撮影等は、これを禁止されていない場所で、大会等の運営を妨げないような機材、方法によることとし、他人に迷惑を及ぼさないよう配慮すること。
- 3 大会等の会場における撮影映像等及びこれらのデータについては、有償、無償にかかわらずこれを不特定多数の者に頒布したり、又はインターネット上やその他の方法でこれを公開して拡散させたりしないこと。ただし、全剣連から許諾を得て行う場合はこの限りでない。

以上

MEMO

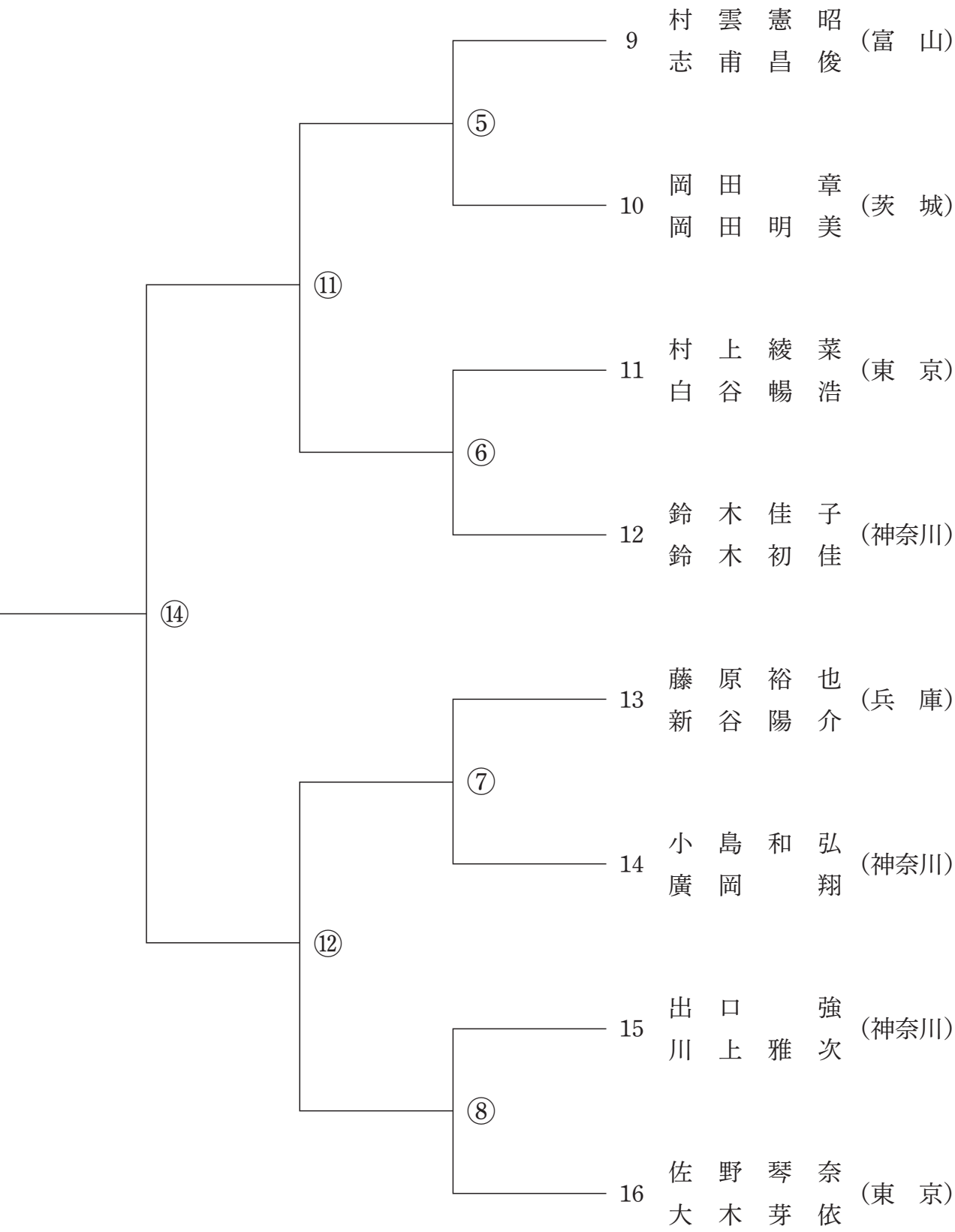
全日本杖道大会

第1試合場



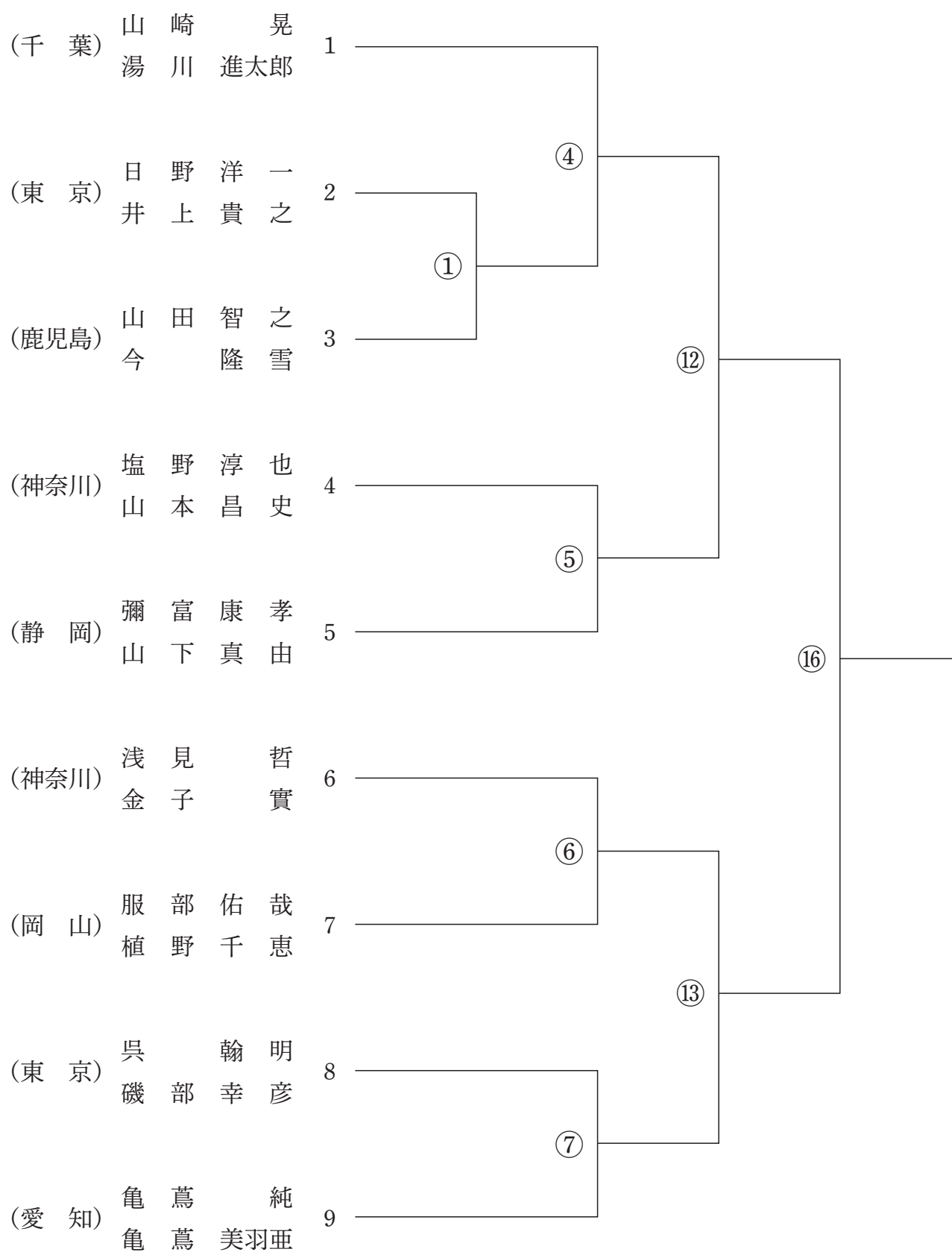
組合せ（初段の部）

第2試合場



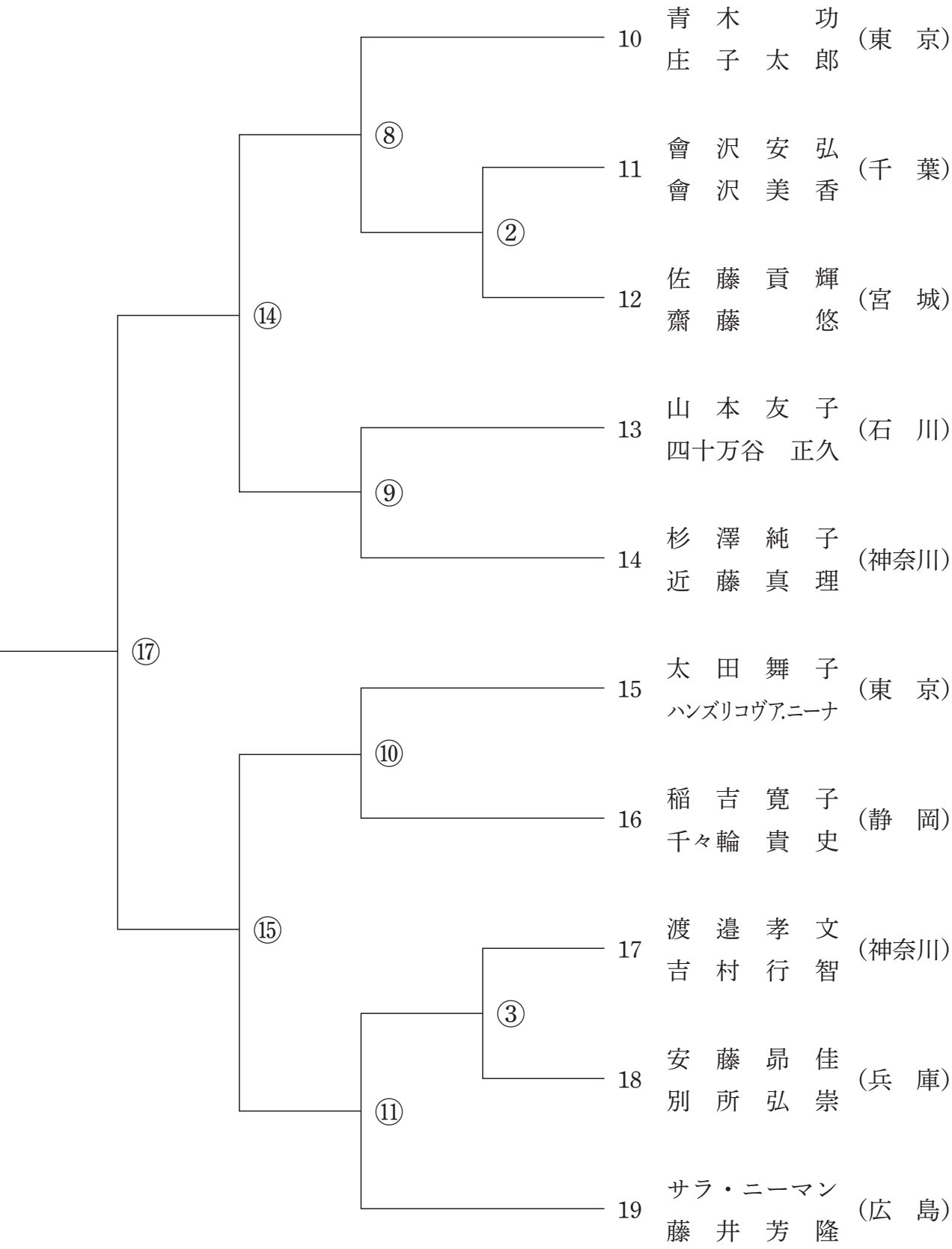
全日本杖道大会

第3試合場



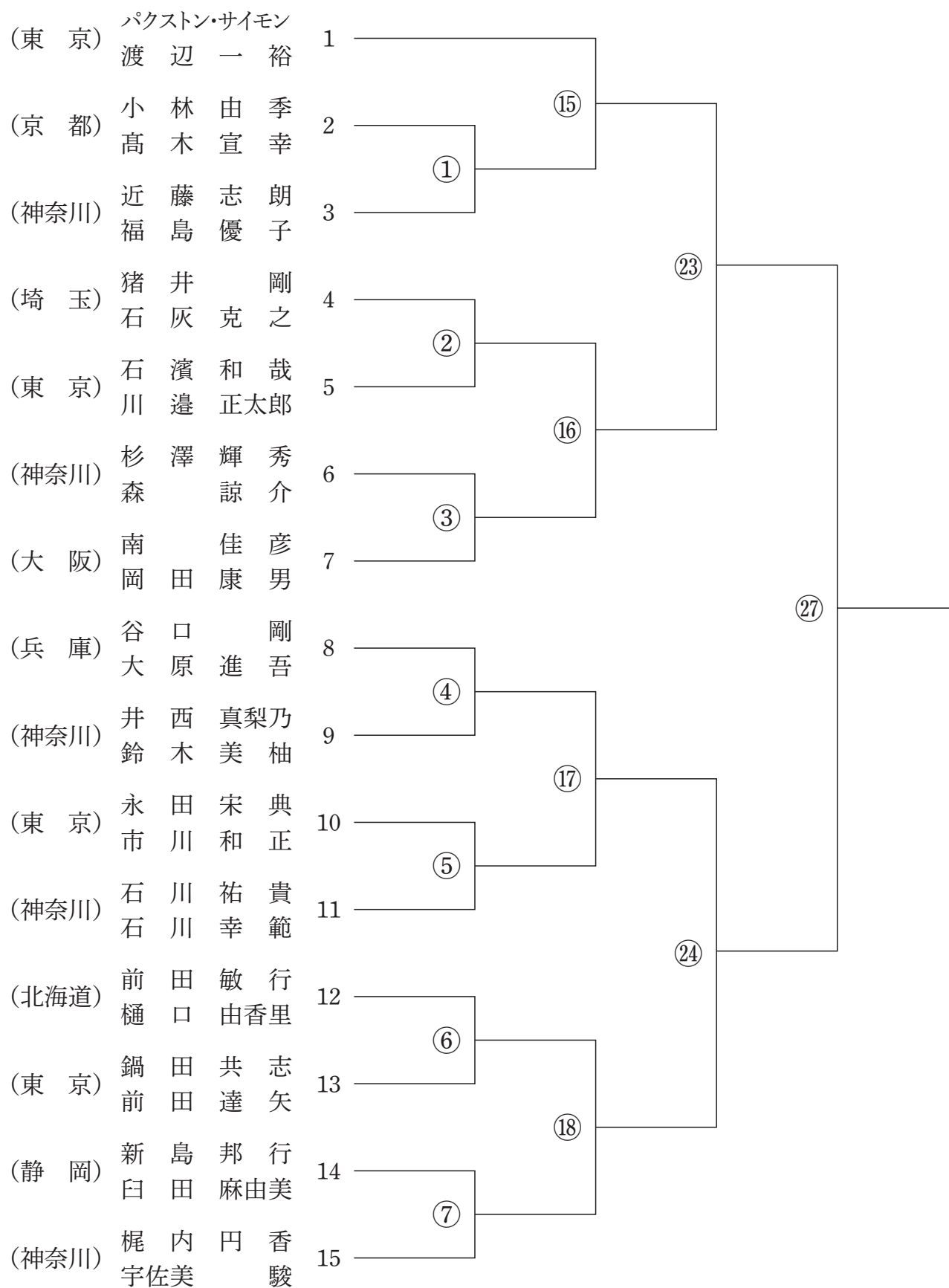
組合せ（二段の部）

第4試合場



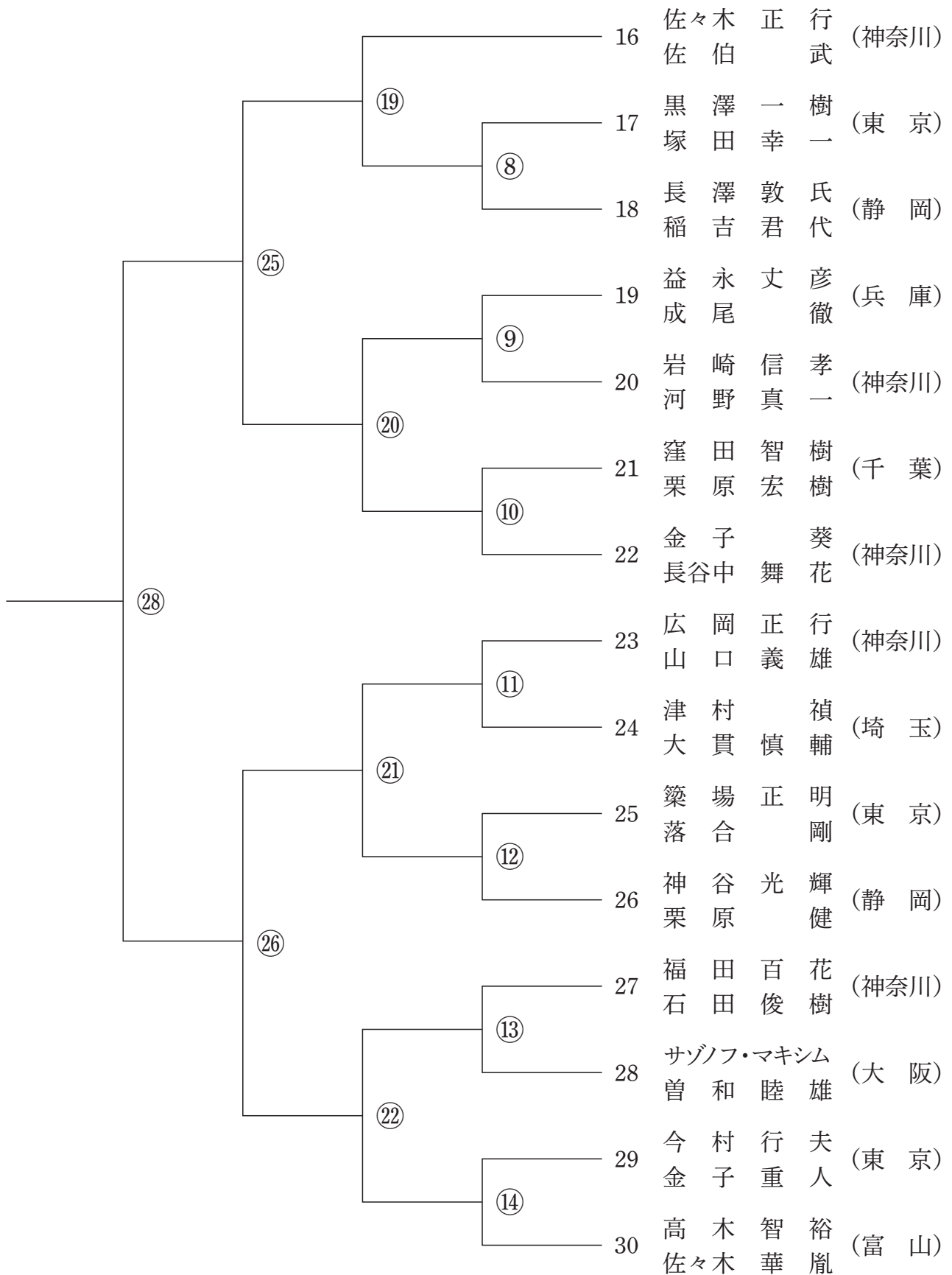
全日本杖道大会

第3試合場



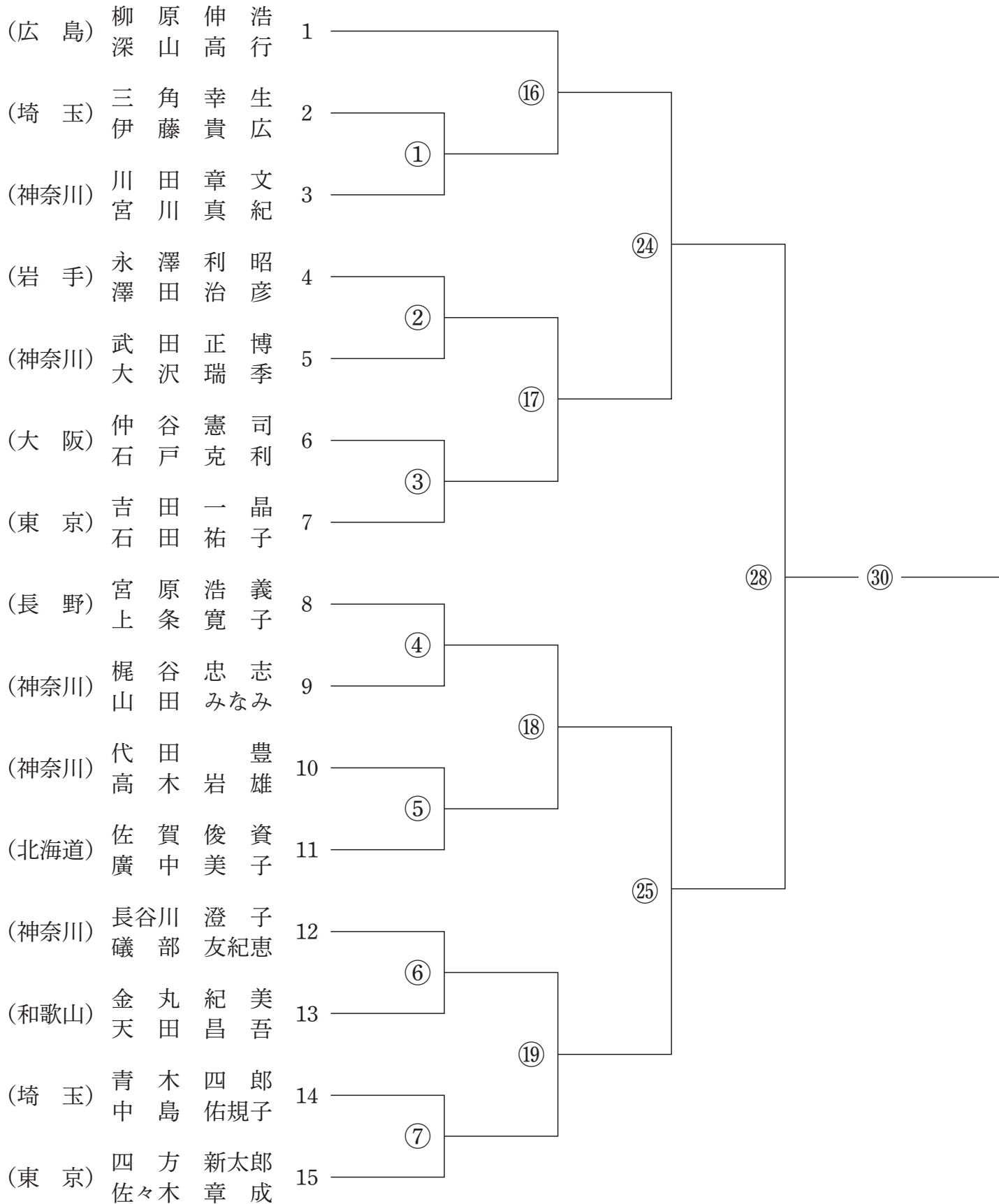
組合せ（三段の部）

第4試合場



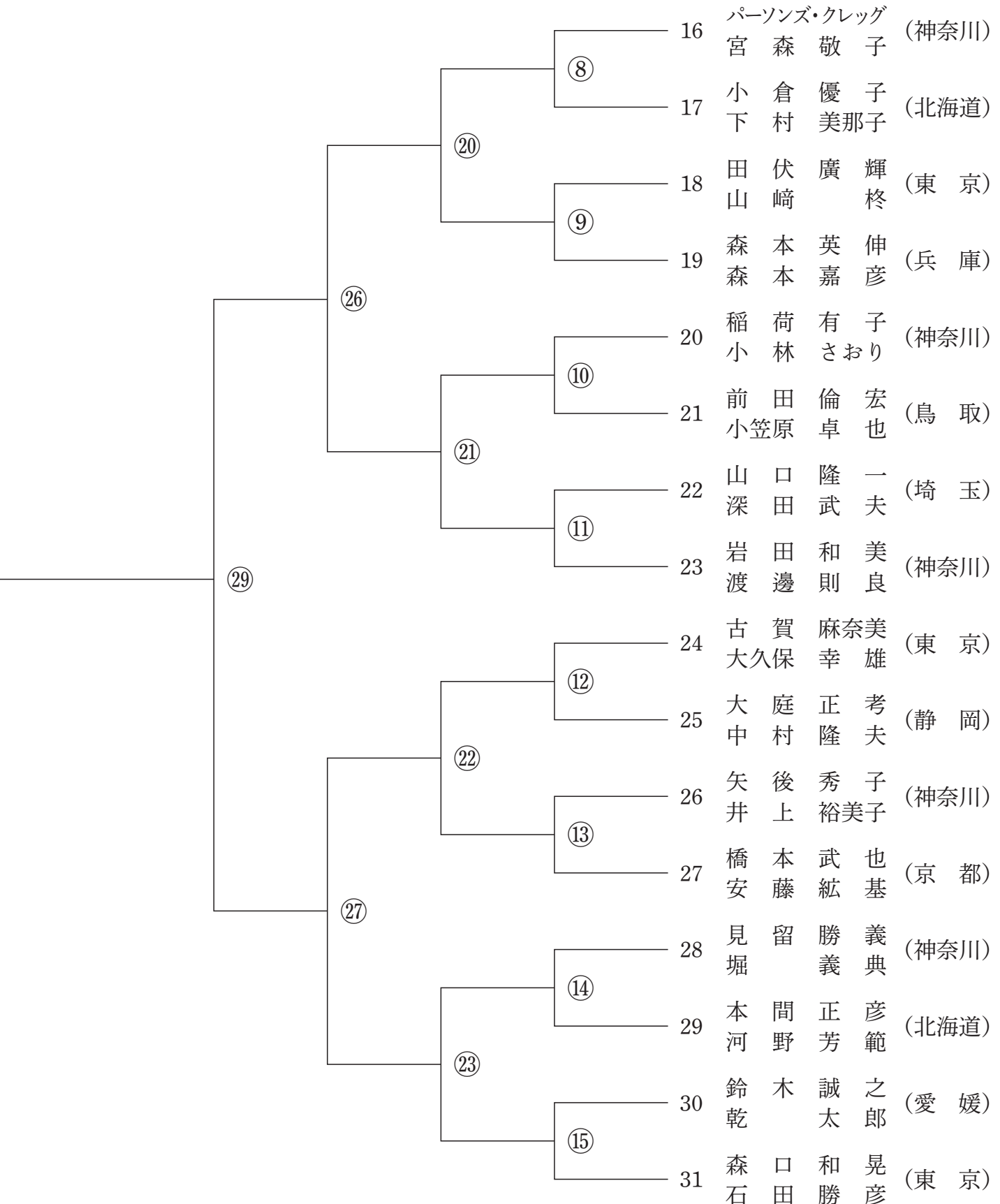
全日本杖道大会

第1試合場



組合せ（四段の部）

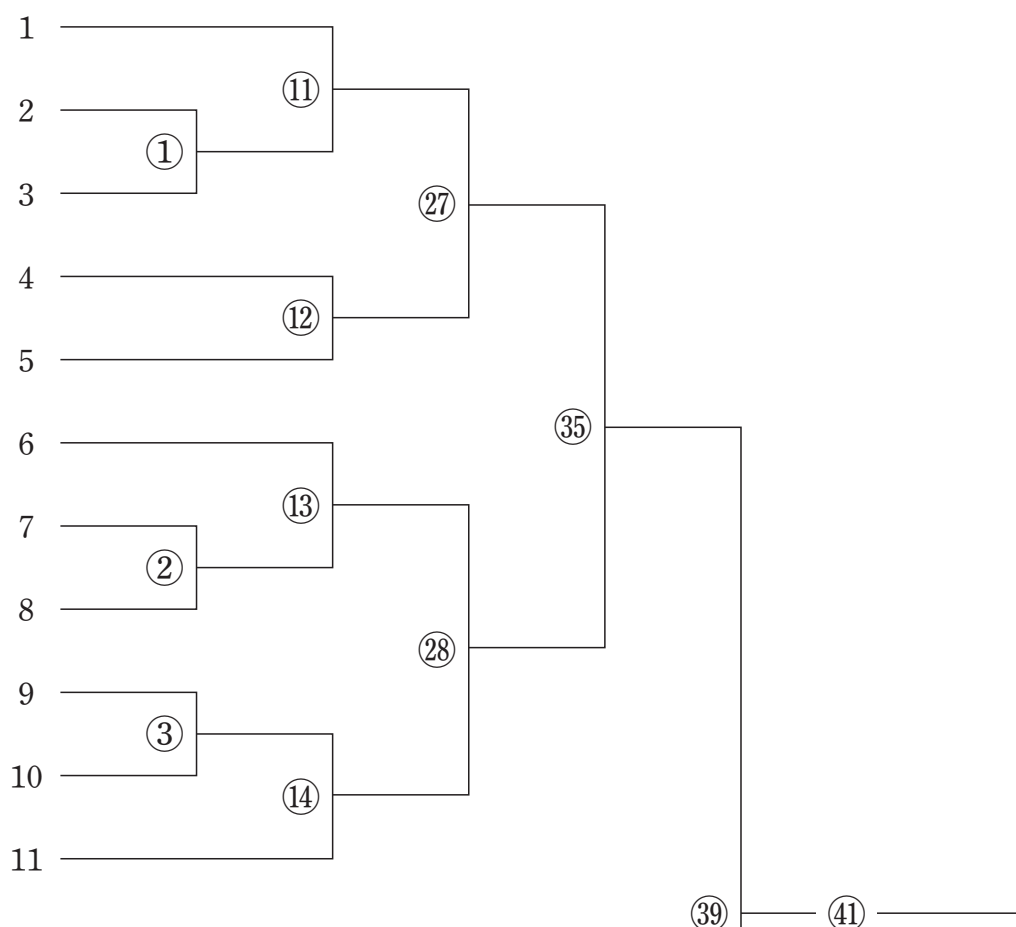
第2試合場



全日本杖道大会

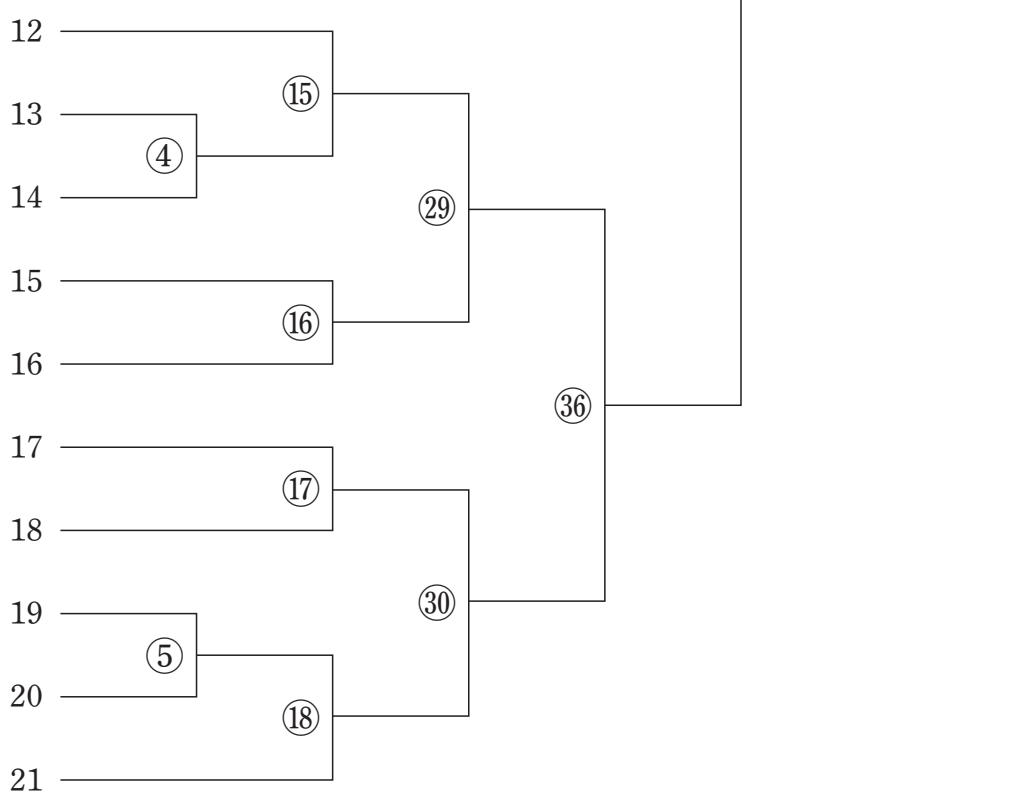
第1試合場

(大 阪)	市 森	川 本	裕 真	一 由
(宮 城)	高 鈴	橋 木	清 宏	一 明
(東 京)	喜 土	入 屋	冬 安	子 男
(神奈川)	梶 岩	田 谷	史 敏	生 之
(長 野)	渋 小	林 山	秀 英	幸 志
(埼 玉)	江 柳	口 井	良 佳	一 美
(石 川)	城 柚	戸 山	清 典	治 実
(愛 知)	梅 横	岡 田	伊 典	織 子
(兵 庫)	神 福	井 井	守 貞	子 市
(静 岡)	廣 末	岡 松	倍 将	清 子
(東 京)	橋 本	本 宏		朋 宏



第2試合場

(北海道)	安 今	丸 橋	裕 介	健 拓
(京 都)	中 岩	川 崎	絵 公	里 明
(茨 城)	田 中	中 尾	宏 康	史 文
(神奈川)	森 藤	島 野	憲 泰	介 徳
(東 京)	滝 越	瀬 智	建 一	彦 彦
(神奈川)	浅 山	村 形	建 一	郎 敢
(兵 庫)	安 荻	藤 野	光 春	春 菜
(東 京)	吉 谷	成 田	圭 耕	二 一
(愛 知)	高 山	木 梨	浩 大	茂 樹
(埼 玉)	渡 今	部 枝		明 輔



組合せ（五段の部）

第3試合場

④①	③⑦	③①	①⑨	22	江上	藤村	知り	徳か	(福 岡)
				23	西篠	田	祐隆	子弘	(東 京)
			⑥	24	鈴平	森田	友	真薫	(兵 庫)
				25	久佐	田々木	真	介隆	(神奈川)
			②①	26	高山	木本	万里	子人	(北海道)
		③②	②①	27	駒武	井藤	圭	忍輔	(埼 玉)
				28	廣廣	岡岡	猛琴	男子	(神奈川)
			⑦	29	前鈴	島木	由好	明子	(静 岡)
				30	館菅	川原	勝	浩人	(福 島)
			②②	31	小河	原	健孝	史行	(東 京)

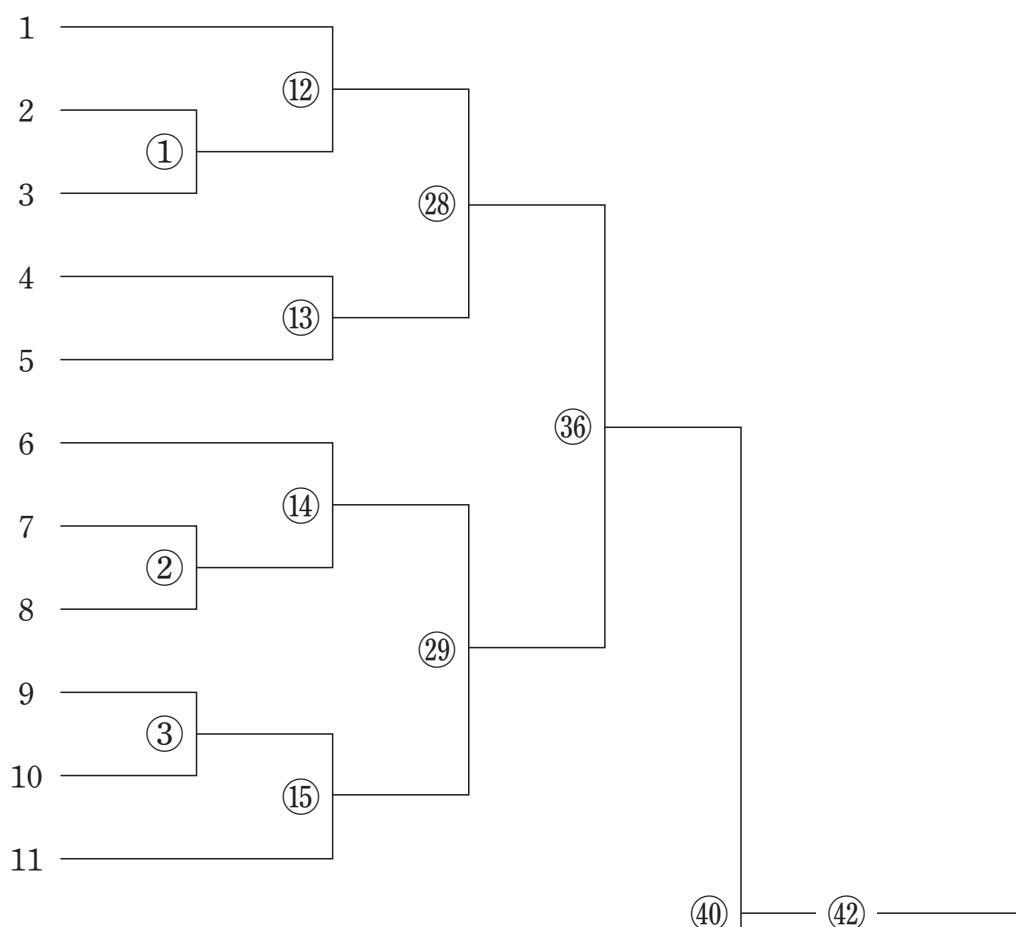
第4試合場

④①	③⑧	③③	②③	32	澤鹿	田野	雄幹	也貴	(東京)
				33	尾松	崎浦	浩	和均	(富山)
			⑧	34	河池	原岡	里香	子子	(広島)
				35	小野	里原	英	一一	(長野)
			⑨	36	塩篠	原西	栄邦	彦薫	(大阪)
		②④		37	小杉	崎崎	利かず	春み	(埼玉)
		②⑤	38	杉佐	古澤	かず	久司	(兵庫)	
			39	古南	崎	博敦	貴令	也紀	(神奈川)
		③④	⑩	40	矢吉	田崎	令	子潤	(東京)
				41	山細	沼木	哲	也誠	(北海道)
		②⑥		42	高安	齋石	太敏	志光	(宮城)
					武				

全日本杖道大会

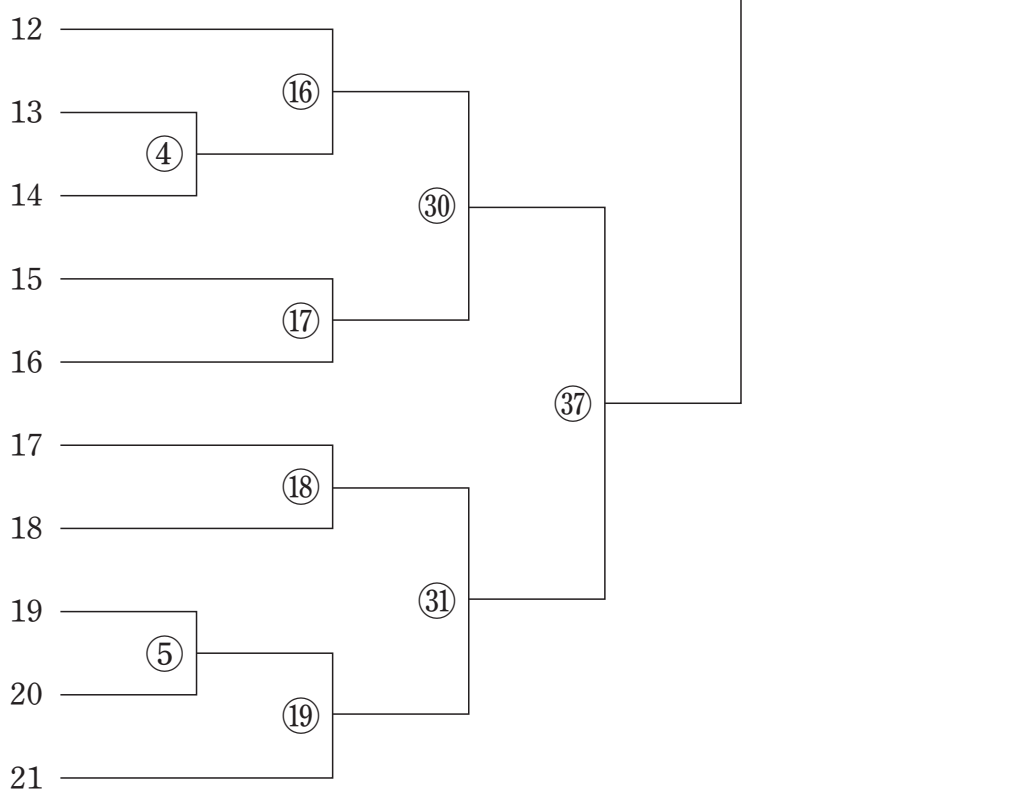
第1試合場

(埼 玉)	樋長	渡島	賢恭	太彦
(東 京)	高山	山山	一ゆき	三子
(兵 庫)	盆子	原嶋	稔嘉	博彦
(愛 知)	中野	呂谷	せつ	子高
(東 京)	戸村	上波	健明	一史
(神奈川)	石田	堂中	砂寿	織香
(富 山)	塚永	中原	芳敬	幸生
(東 京)	高伊	羽村	知未	紀散
(福 岡)	中高	村嶋	嘉憲	雄郎
(北海道)	野伊	澤藤	草	太稔
(東 京)	日吉	向村	眞	裕澄



第2試合場

(神奈川)	重船	松本	利	昭隆
(福 岡)	城山	台本	順美	子紀
(東 京)	福太	見田	健修	治司
(東 京)	海山	原川	恵	要司
(静 岡)	辻高	田孫	洋松	樹典
(岩 手)	煤駒	込岡	達徹	雄雄
(東 京)	平浅	野村	靖勝	之正
(東 京)	中河	村上	美珠	子枝
(京 都)	鎌高	田田	眞美	之恵
(千 葉)	藤大	崎田	明恵	美子



組合せ（六段の部）

第3試合場

④①	③⑧	③②	②①	22	西清	垣水	泰裕	宏子	(神奈川)
				23	篠西	崎山	和正	淳位	(茨城)
				24	荒坂	木元	博	亨美	(福岡)
				25	原上	田村	崇恵	大幸	(奈良)
				26	河小	野谷	純浩	美司	(東京)
				27	佐々木	鷹沼	浩	史良	(宮城)
	③③	②②	⑦	28	神貝	山村	純正	也美	(静岡)
				29	徳上	槻山	洋	平潮	(東京)
		②③	⑧	30	大森	山山	良垂	樹子	(熊本)
				31	森加	山藤	義彰	明子	(埼玉)
				32	中石	澤川	俊のり	子	(東京)
					田	村			

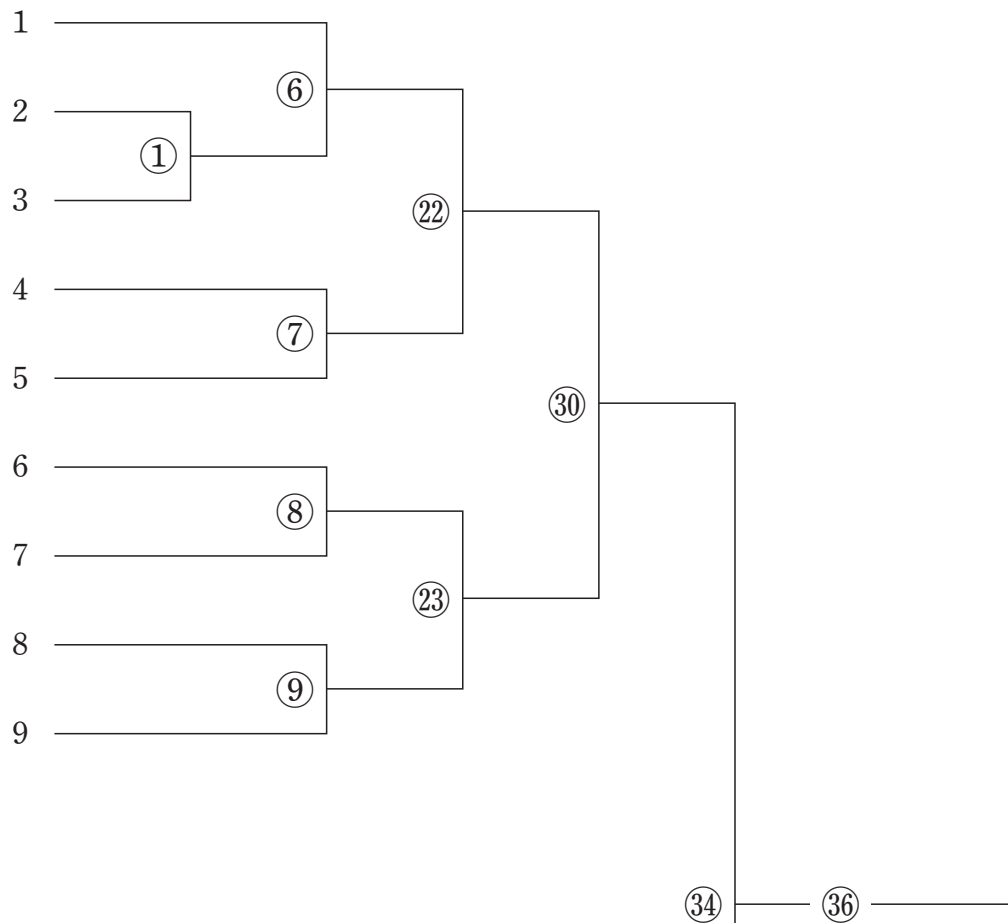
第4試合場

④①	③④	②④	⑨	33	小荻	野野	浩太	郎祐	(兵庫)
				34	西額	山賀	伸	貢次	(東京)
				35	森森		正英	敏子	(福岡)
		②⑤	⑩	36	河佐	合木	由紀	子胤	(富山)
				37	谷日	高	賢一	郎仁	(東京)
				38	石石	橋橋	昭賢	諭子	(神奈川)
	③⑤	②⑥		39	齋積	藤田	誠正	美夫	(東京)
				40	井瀬	上尾	貞熊	一郎	(広島)
		②⑦	⑪	41	那田	須村	俊	勉志	(北海道)
				42	中鈴	村木	浩理	恵子	(東京)
				43	岩岩	田田	勝高	明	(神奈川)
							みどり		

全日本杖道大会

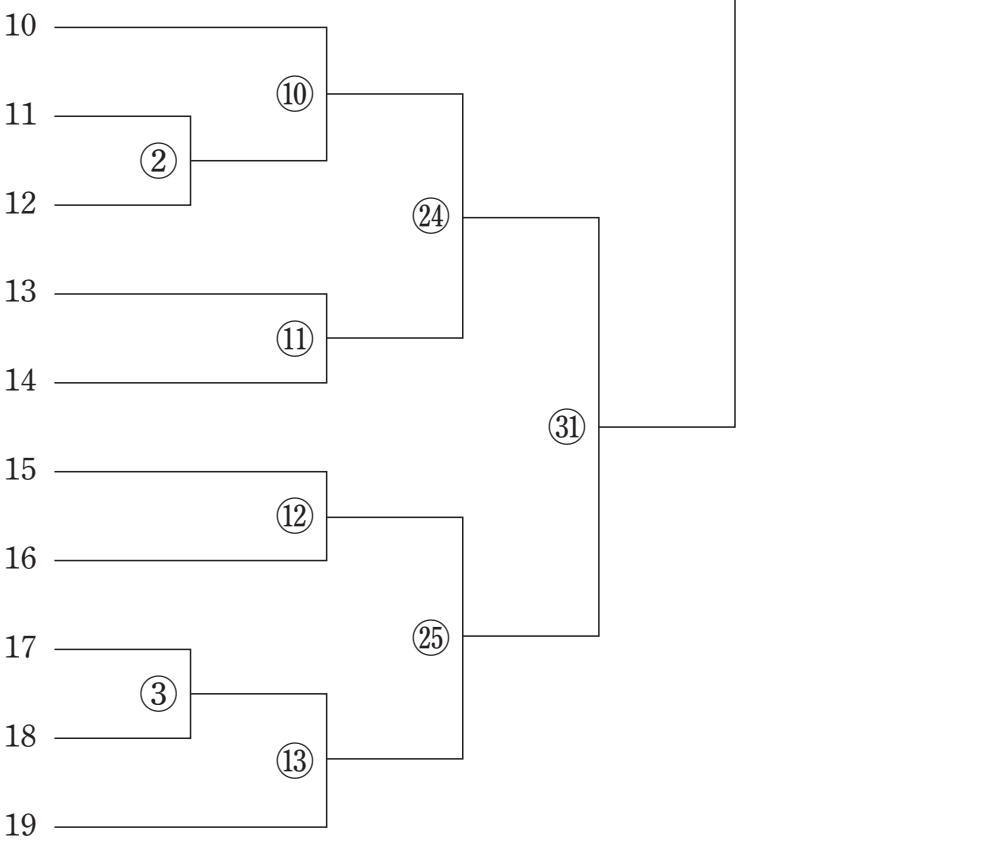
第1試合場

(神奈川)	青佐	木野	はるみ	1
(埼 玉)	瀧天	澤野	弘 和	2
(静 岡)	後笠	藤原	利宏	3
(東 京)	宗安	形藤	清孝	4
(福 岡)	伊久	橋家	力智	5
(神奈川)	平吉	原成	秀 慶	6
(宮 城)	村 村	上 上	喜浩	7
(福 岡)	矢ヶ金	部 村	和宜	8
(東 京)	平藤	木 原	龍一	9
			真 理	
			敏 茂	
			成	



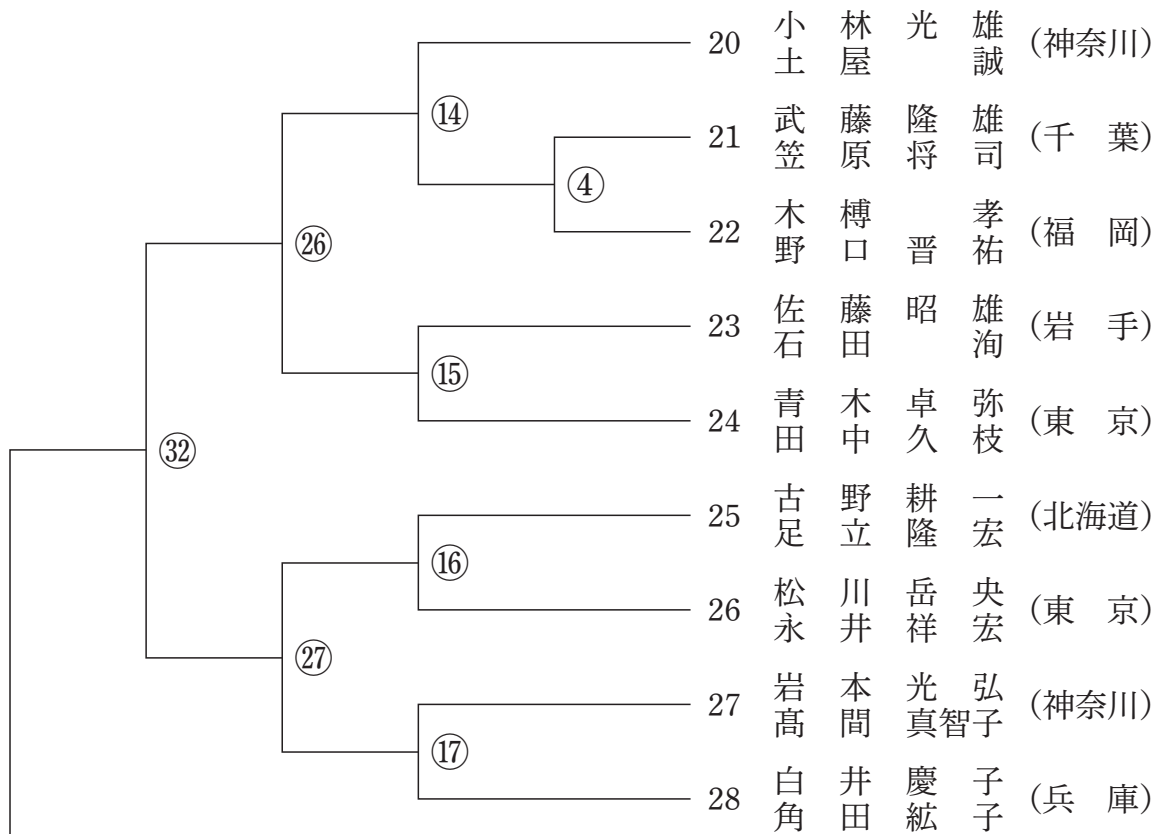
第2試合場

(東 京)	佐荒	藤木	信 暢	10
(大 阪)	渡大島	邊谷	ロマン	11
(神奈川)	久齋	田藤	孝嘉	12
(東 京)	草星	野 野	祐太郎	13
(北海道)	砂井	原上	新廣	14
(山 形)	工村	藤田	千代子	15
(東 京)	笠佐	原藤	忠 幸	16
(福 岡)	入高	江嶋	美智代	17
(石 川)	ビットマン	野 節	ハイコ	18
(神奈川)	石川	堂 越	虎太郎	19
			津	

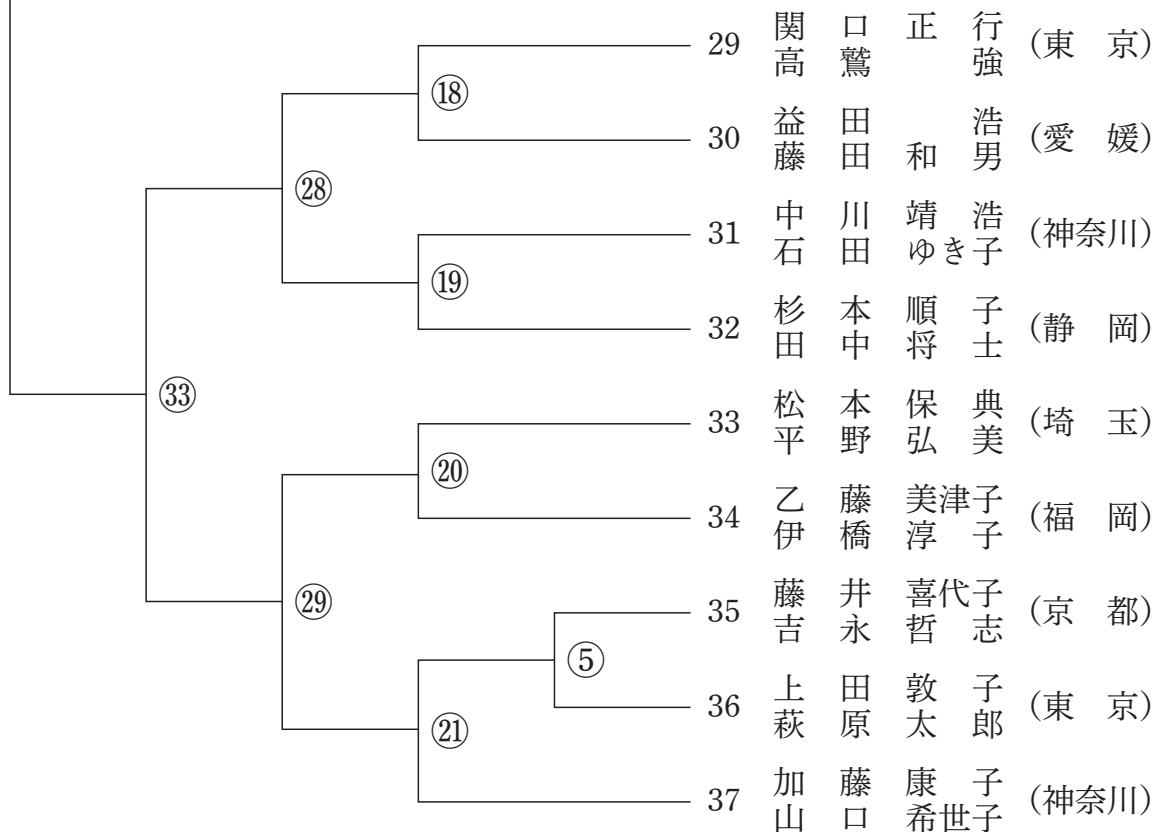


組合せ（七段の部）

第3試合場



第4試合場



個人演武（全剣連杖道の部）

立会

範士 椎屋 光男

「打」

1	A組	範士八段	藤 崎	興 朗	(東京)
2	B組	範士八段	釣 賀	敏 郎	(東京)
3	A組	範士八段	安 丸	進 行	(北海道)
4	B組	範士八段	大 竹	俊 行	(神奈川)
5	A組	教士八段	矢 野	多 衛	(神奈川)
6	B組	教士八段	庄 司	敬 一	(宮城)
7	A組	教士八段	松 村	勇 和	(兵庫)
8	B組	教士八段	上 田	保 一	(和歌山)
9	A組	教士八段	本 安	恵 一	(広島)
10	B組	教士八段	阿 部	秋 雄	(神奈川)
11	A組	教士八段	東 力	公 平	(東京)
12	B組	教士八段			(東京)
13	A組	教士八段			(東京)

「仕」

範士八段	神 代	孝 一	(福岡)
範士八段	村 上	直 隆	(宮城)
範士八段	椿 水	三 夫	(東京)
教士八段	清 野	二 久	(東京)
教士八段	小 太	勇 昭	(長野)
教士八段	田 田	景 子	(埼玉)
教士八段	上 森	安 津	(東京)
教士八段	江 井	友 子	(福岡)
教士八段	坂 藤	知 亨	(大阪)
教士八段	服 上	司 典	(大阪)
教士八段	三 浦	康 典	(東京)
教士八段	安 部	幸 路	(大分)

14	B組	教士七段	上 田	敦 子	(東京)
15	A組	教士七段	萩 原	太 郎	(東京)
16	B組	教士七段	平 木	茂 司	(東京)
17	A組	教士七段	矢 鋪	祐 二	(広島)
18	B組	教士七段	藤 原	敏 成	(東京)
19	A組	教士七段	前 田	新 吾	(愛知)
20	B組	錬士七段	長 濱	美 知	(東京)
21	A組	教士七段	足 立	隆 宏	(北海道)
22	B組	教士七段	滝 口	功 宏	(山形)
23	A組	錬士七段	小 野	尚 宏	(大阪)
24	B組	錬士七段	高 橋	一 美	(福島)
25	A組	錬士六段	吉 村	眞 澄	(東京)
26	B組	錬士六段	河 野	恵 子	(鹿児島)
27					

個人演武（古流の部）

「打」

28	A組	範士八段	富 永	彰 三	(福岡)
29	B組	範士八段	黒 郷	源 慈	(広島)
30	A組	教士八段	神之 蘭	文 男	(神奈川)
31	B組	教士八段	林 映	嘉 一	(神奈川)
32	A組	教士八段	安 田	孝 一	(神奈川)
33	B組	錬士七段	笠 原	岳 彰	(静岡)
34	A組	教士七段	松 川	央 久	(東京)
35	B組	教士七段	星 野	公 宜	(東京)
36	A組	教士七段	天 野	宏 勝	(埼玉)
37	B組	錬士六段	浅 根	正 明	(東京)
38	A組	教士七段	関 林	正 成	(埼玉)
39	B組	錬士六段	小 下		(東京)
40	A組	錬士六段			(神奈川)

「仕」

範士八段	福 田	博 文	(福岡)
教士八段	宮 脇	誠 吾	(広島)
教士八段	小 塚	禮 子	(神奈川)
教士七段	岩 田	善 信	(神奈川)
教士七段	時 任	晴 美	(神奈川)
教士七段	後 藤	清 隆	(静岡)
錬士七段	永 井	祥 宏	(東京)
錬士六段	平 岡	靖 之	(東京)
教士七段	青 木	卓 弥	(東京)
教士七段	草 野	祐 太郎	(東京)
錬士六段	中 澤	彰 子	(埼玉)
錬士六段	長 島	恭 彦	(埼玉)
錬士七段	西 川	健 司	(福岡)

過 去 の 記 録

回数	期日・場所	第 一 位
第1回	昭和49年8月4日(日) 芝 学 園 (東京都)	[五段の部] 山下 貞利・織方 章 組 〈福 岡〉 [四段の部] 大里 耕平・奥野 堯昭 組 〈東 京〉 [三段の部] 井端 満・佐藤 成孝 組 〈大 阪〉 [二段の部] 広瀬 淳・初田 幸助 組 〈東 京〉 [初段以下] 安宅 文子・金子 英子 組 〈東 京〉
第2回	昭和50年8月3日(日) 早稲田大学記念会堂 (東京都)	[五段の部] 古川 瞬也・小林 勇彦 組 〈東 京〉 [四段の部] 荒井 洋・椎屋 光男 組 〈東 京〉 [三段の部] 生田 正治・森 忠義 組 〈東 京〉 [二段の部] 安宅 文子・原 紹子 組 〈東 京〉 [初段以下] 池原 一義・石河 和彦 組 〈大 阪〉
第3回	昭和51年7月25日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 古川 瞬也・荒井 洋 組 〈東 京〉 [四段の部] 黒郷 源慈・内藤 五雄 組 〈東 京〉 [三段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [二段の部] 福田 健・高橋 公 組 〈東 京〉 [初段以下] 田中 晶子・大草 早苗 組 〈東 京〉
第4回	昭和52年7月31日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 大里 耕平・清水 勇二 組 〈東 京〉 [四段の部] 片山 伸一・柞山 茂克 組 〈東 京〉 [三段の部] 原 紹子・羽石智恵子 組 〈東 京〉 [二段の部] 和田 文雄・小林 勝義 組 〈東 京〉 [初段以下] 一関 祐子・田村 英路 組 〈東 京〉
第5回	昭和53年7月30日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 内藤 五雄・大里 耕平 組 〈東 京〉 [四段の部] 黒郷 源慈・山口 高治 組 〈東 京〉 [三段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東 京〉 [二段の部] 藤崎 興朗・一関 祐子 組 〈東 京〉 [初段以下] 庄司 敬一・砂金 博之 組 〈宮 城〉
第6回	昭和54年7月29日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 片山 伸一・斎藤 勝彦 組 〈東 京〉 [四段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東 京〉 [三段の部] 篠原 保・小林 幹正 組 〈東 京〉 [二段の部] 河崎 清二・矢野 良 組 〈愛 媛〉 [初段以下] 清水 徳子・正岡なぎさ 組 〈愛 媛〉
第7回	昭和55年7月20日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 荒井 洋・椎屋 光男 組 〈東 京〉 [四段の部] 西川 忠邦・篠原 良一 組 〈東 京〉 [三段の部] 太田 安昭・田村 英路 組 〈東 京〉 [二段の部] 布施 広幸・永井 隆 組 〈東 京〉 [初段以下] 林 映子・浜野 圭子 組 〈神奈川〉
第8回	昭和56年7月26日(日) 巢鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 岡本 義一・中村 達猪 組 〈福 岡〉 [四段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東 京〉 [三段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [二段の部] 矢野多衛子・林 映子 組 〈神奈川〉 [初段以下] 草野知三良・佐藤 篤範 組 〈東 京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第9回	昭和57年8月29日(日) 福岡武道館 (福岡県)	[五段の部] 江澤 義信・阿部 修 組 〈東 京〉 [四段の部] 古川 一雄・青木 良一 組 〈東 京〉 [三段の部] 有吉 潤哉・岡村 典昭 組 〈福 岡〉 [二段の部] 石井 俊治・日高 満弥 組 〈福 岡〉 [初段以下] 草野知三良・佐藤 篤範 組 〈東 京〉
第10回	昭和58年7月31日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [四段の部] 小塚 禮子・関山 修 組 〈神奈川〉 [三段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [二段の部] 佐藤 篤範・菅原 清孝 組 〈東 京〉 [初段の部] 薩川 璋子・新村 萬藏 組 〈福 岡〉
第11回	昭和59年8月5日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[五段の部] 阿部 修・江澤 義信 組 〈東 京〉 [四段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [三段の部] 岡村 典昭・波止 容子 組 〈福 岡〉 [二段の部] 白井 清藏・馬場 好章 組 〈大 阪〉 [初段の部] 仲田 博信・岩崎 光治 組 〈大 阪〉
第12回	昭和60年8月4日(日) 三原市円一町 リージョンプラザ体育館 (広島県)	[五段の部] 中村 幸夫・森 恪 組 〈福 岡〉 [四段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [三段の部] 波止 容子・薩川 璋子 組 〈福 岡〉 [二段の部] 中西 一孝・島原 義輝 組 〈福 岡〉 [初段の部] 高浪進一郎・有吉 孝一 組 〈福 岡〉
第13回	昭和61年8月3日(日) 大阪市立東淀川体育館 (大阪府)	[五段の部] 森本 訓史・田所 通子 組 〈大 阪〉 [四段の部] 波止 容子・有吉 潤哉 組 〈福 岡〉 [三段の部] 朱雀 道子・木村 栄子 組 〈福 岡〉 [二段の部] 池永 和哉・苅谷 浩之 組 〈大 阪〉 [初段の部] 笠谷 哲次・上永俊亥治 組 〈大 阪〉
第14回	昭和62年8月2日(日) 静岡市中央体育館 (静岡県)	[五段の部] 太田 安昭・加藤 望 組 〈東 京〉 [四段の部] 波止 容子・朱雀 道子 組 〈福 岡〉 [三段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組 〈東 京〉 [二段の部] 谷口 法子・世古 俊之 組 〈大 阪〉 [初段の部] 山本 裕樹・橘高 良和 組 〈大 阪〉
第15回	昭和63年7月31日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [五段の部] 神之園文男・小塚 禮子 組 〈神奈川〉 [四段の部] 伊藤 晋次・朱雀 道子 組 〈福 岡〉 [三段の部] 坂上 亨・笠谷 哲次 組 〈大 阪〉 [二段の部] 矢ヶ部龍一郎・ボギキャン・ジョージ 組 〈福 岡〉 [初段の部] 井上 真一・進藤 眞 組 〈大 阪〉
第16回	平成元年8月6日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 山口 薫・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [五段の部] 草野知三良・阿出川篤範 組 〈東 京〉 [四段の部] 亀井 伸一・中野 伊織 組 〈大 阪〉 [三段の部] 濱口 誠蔵・上村 一郎 組 〈東 京〉 [二段の部] 下野 一成・関根 進緑 組 〈東 京〉 [初段の部] 下村 卓・岩渕 太美 組 〈東 京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第17回	平成2年8月5日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 太田 安昭・篠原 良一 組 〈東 京〉 [五段の部] 神之園文男・小塚 禮子 組 〈神奈川〉 [四段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組 〈東 京〉 [三段の部] 神代 昌明・矢ヶ部龍一郎 組 〈福 岡〉 [二段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東 京〉 [初段の部] 花田 武・柴田 啓 組 〈福 岡〉
第18回	平成3年8月4日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 小塚 禮子・神之園文男 組 〈神奈川〉 [五段の部] 藤原 敏成・力武 公平 組 〈東 京〉 [四段の部] 高浪進一郎・矢ヶ部龍一郎 組 〈東 京〉 [三段の部] 瀬戸 光司・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [二段の部] 原田 三紀・荒槇 美和 組 〈広 島〉 [初段の部] 足田 修士・麻田 彰子 組 〈大 阪〉
第19回	平成4年8月2日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[六段の部] 太田 安昭・加藤 望 組 〈東 京〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 関根 進緑・下野 一成 組 〈東 京〉 [三段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東 京〉 [二段の部] 久田 孝博・堀米 俊明 組 〈神奈川〉 [初段の部] 藤沢 正樹・石田 敦 組 〈大 阪〉
第20回	平成5年8月1日(日) 広島市東区 スポーツセンター (広島県)	[六段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 矢ヶ部龍一郎・松山 一之 組 〈福 岡〉 [三段の部] 菊谷 暁・福沢 功 組 〈東 京〉 [二段の部] 國方 孝之・宮脇 誠吾 組 〈広 島〉 [初段の部] 小林 道弘・竹尾 祥充 組 〈広 島〉
第21回	平成6年7月31日(日) 宮城県スポーツセンター (宮城県)	[六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 山口 道子・白井 清藏 組 〈神奈川〉 [四段の部] 時任 晴美・瀬戸 光司 組 〈神奈川〉 [三段の部] 宮脇 誠吾・原田 三紀 組 〈広 島〉 [二段の部] 小山 則夫・梅沢 隆夫 組 〈東 京〉 [初段の部] 小林 一規・小池スエ子 組 〈長 野〉
第22回	平成7年10月8日(日) 福岡武道館 (福岡県)	[六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 鬼木 正道・古澤 裕二 組 〈福 岡〉 [四段の部] 平原 喜孝・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [三段の部] 三留さえ子・入江美智代 組 〈福 岡〉 優秀賞 上野加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [二段の部] 辻辺 美紀・柿原 里志 組 〈広 島〉 優秀賞 梅澤 隆夫・小山 則夫 組 〈東 京〉 [初段の部] 小川内泰生・野口 藍 組 〈福 岡〉 優秀賞 奥田 省三・島津加奈子 組 〈広 島〉

回数	期日・場所	第 一 位
第23回	平成8年10月6日(日) 南足柄市体育センター (神奈川県)	[七段の部] 神代 孝一・乙藤美津子 組 〈福 岡〉 [六段の部] 和田日出光・岡村 典昭 組 〈東 京〉 [五段の部] 鹿島 晃・坂上 亨 組 〈大 阪〉 [四段の部] 下川 秀美・米田 廉 組 〈福 岡〉 [三段の部] 宮脇 誠吾・國方 孝之 組 〈広 島〉 優秀賞 五味 恭一・山田 善興 組 〈長 野〉 [二段の部] 小林 一規・小池スエ子 組 〈長 野〉 優秀賞 今井 敏喜・山田 昇 組 〈長 野〉 [初段の部] 土亀 誠・世利 慎吾 組 〈福 岡〉 優秀賞 宮川 富子・宮田 勝一 組 〈福 岡〉
第24回	平成9年10月5日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 小塚 禮子・神之藺文男 組 〈神奈川〉 [六段の部] 林 映子・矢野多衛子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 下野 一成・安田 嘉一 組 〈神奈川〉 [四段の部] 上田 睦也・持田 均 組 〈東 京〉 [三段の部] 小林 一規・小池スエ子 組 〈長 野〉 優秀賞 森井加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [二段の部] 森岡 勝昭・中川 陽介 組 〈大 阪〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組 〈広 島〉 [初段の部] 永井 祥宏・清水 英男 組 〈東 京〉 優秀賞 坂口 隆憲・野口 晋祐 組 〈福 岡〉
第25回	平成10年10月4日(日) 大阪市立東淀川体育館 (大阪府)	[七段の部] 山口 董・大竹 俊行 組 〈神奈川〉 [六段の部] 池原 一義・坂上 亨 組 〈大 阪〉 [五段の部] 下野 一成・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [三段の部] 辻辺 美紀・井内 智美 組 〈広 島〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組 〈広 島〉 [二段の部] 宮田 勝一・森岡 勝昭 組 〈大 阪〉 優秀賞 相原 健児・加藤 直也 組 〈神奈川〉 [初段の部] 市原 孝・高間真智子 組 〈神奈川〉 優秀賞 上野 二・高良 英臣 組 〈福 岡〉
第26回	平成11年10月3日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 神之藺文男・小塚 禮子 組 〈神奈川〉 [六段の部] 迫田文博・クリスマンスフィールド 組 〈神奈川〉 [五段の部] 庄司 正幸・工藤千代子 組 〈山 形〉 [四段の部] 津川秀夫・ジョージ・アセヴェド 組 〈東 京〉 [三段の部] 齊藤 嘉教・岩本 光弘 組 〈東 京〉 優秀賞 高橋 伸・島津加奈子 組 〈広 島〉 [二段の部] 伊橋 淳子・末石 澄恵 組 〈福 岡〉 優秀賞 矢野 卓慈・花ノ井一弥 組 〈東 京〉 [初段の部] 伊橋 慶・杵島 勉 組 〈福 岡〉 優秀賞 樋渡 賢太・関 展秀 組 〈東 京〉

回数	期日・場所	第 一 位
第27回	平成12年10月8日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 福田 博文・神代 孝一 組 〈福 岡〉 [六段の部] 近藤眞佐雄・坂上 亨 組 〈大 阪〉 [五段の部] 入江美智代・橋口 秀雄 組 〈福 岡〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [三段の部] 宗像 純子・住吉美代子 組 〈北海道〉 優秀賞 沼田 範行・古野 耕一 組 〈北海道〉 [二段の部] 豊田 泰生・山岸 啓哉 組 〈東 京〉 優秀賞 松下 俊夫・関 展秀 組 〈東 京〉 [初段の部] 渡辺 直人・大野 寿子 組 〈東 京〉 優秀賞 中村 敬介・松谷 利信 組 〈福 岡〉
第28回	平成13年10月7日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 矢野多衛子・林 映子 組 〈神奈川〉 [六段の部] 白井 清蔵・鬼木 正道 組 〈福 岡〉 [五段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [四段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [三段の部] 伊橋 淳子・末石 澄恵 組 〈福 岡〉 優秀賞 沼田 範行・古野 耕一 組 〈東 京〉 [二段の部] 高橋 英士・水原 基晶 組 〈広 島〉 優秀賞 小野 敦・小野寺 愛 組 〈埼 玉〉 [初段の部] 大庭 正考・久家 秀宜 組 〈福 岡〉 優秀賞 鹿江 由紀・坂口 研一 組 〈福 岡〉
第29回	平成14年10月6日(日) 北海道立総合体育センター (北海道)	[七段の部] 福田 博文・神代 孝一 組 〈福 岡〉 [六段の部] 天野 宏宣・上田花代子 組 〈埼 玉〉 [五段の部] 森井加代子・上田 敦子 組 〈東 京〉 [四段の部] 宗像 純子・住吉美代子 組 〈北海道〉 [三段の部] 古野 耕一・成田 重信 組 〈北海道〉 優秀賞 永井 祥宏・内山 隆太 組 〈東 京〉 [二段の部] 藤原 早苗・清水 隆樹 組 〈北海道〉 優秀賞 井上 廣己・那須 勉 組 〈北海道〉 [初段の部] 堺 彪・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 優秀賞 小寺 基・西田真由美 組 〈北海道〉
第30回	平成15年10月12日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [六段の部] 白井 清蔵・鬼木 正道 組 〈福 岡〉 [五段の部] 時任 晴美・赤木 孝子 組 〈神奈川〉 [四段の部] 橋本 幸士・矢羽田 直 組 〈福 岡〉 [三段の部] 伊橋 慶・伊橋 淳子 組 〈福 岡〉 優秀賞 木樽 孝・佐野 弘和 組 〈神奈川〉 [二段の部] 清水 隆樹・大橋 信彦 組 〈北海道〉 優秀賞 塩田 悟士・柴野 和人 組 〈北海道〉 [初段の部] 川越麻奈帆・小道 有紗 組 〈広 島〉 優秀賞 松丸絹枝・ジョコ・プリヤント 組 〈福 岡〉

回数	期日・場所	第 一 位
第31回	平成16年10月3日(日) 愛媛県武道館 (愛媛県)	[七段の部] 安野 裕子・岡部 盛重 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 下野 一成・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [五段の部] 下川 秀美・米田 廉 組 〈福 岡〉 [四段の部] 宮田 勝一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [三段の部] 小家 隆博・鹿江 由紀 組 〈福 岡〉 優秀賞 久家 秀宣・伊橋 慶 組 〈福 岡〉 [二段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 岩田みどり・神之藺知香 組 〈神奈川〉 [初段の部] 藤原 淳・玉田 治三 組 〈愛 媛〉 優秀賞 松岡 耕毅・千葉由美子 組 〈北海道〉
第32回	平成17年10月2日(日) 宮城県スポーツセンター (宮城県)	[七段の部] 福田 博文・森 恪 組 〈福 岡〉 [六段の部] 下野 一成・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [五段の部] 宮脇 誠吾・宮脇加奈子 組 〈広 島〉 [四段の部] 宮田 勝一・古野 耕一 組 〈北海道〉 [三段の部] 鹿江 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 優秀賞 大庭 正考・久家 秀宣 組 〈福 岡〉 [二段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 岩田みどり・岩田 高明 組 〈神奈川〉 [初段の部] 伊藤 稔・千葉 忠侑 組 〈北海道〉 優秀賞 横川 賀代・横川 生敏 組 〈愛 媛〉
第33回	平成18年10月8日(日) 江戸川区スポーツセンター (東京都)	[七段の部] 神之藺文男・安田 嘉一 組 〈神奈川〉 [六段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [五段の部] 齋藤 嘉教・岩本 光弘 組 〈神奈川〉 [四段の部] 瀬川 洋平・小家 隆博 組 〈福 岡〉 [三段の部] 石田 博美・住本俊一郎 組 〈鹿児島〉 優秀賞 高嶋 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 [二段の部] 松尾 静香・池崎 寿美 組 〈福 岡〉 優秀賞 丸山 貴弘・中村美代子 組 〈東 京〉 [初段の部] 伊藤 稔・浅井 康孝 組 〈北海道〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉
第34回	平成19年10月7日(日) 福岡市民体育館 (福岡県)	[七段の部] 釣賀 敏郎・藤崎 興朗 組 〈東 京〉 [六段の部] 時任 晴美・下野 一成 組 〈神奈川〉 [五段の部] 宮田 勝一・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 伊橋 慶・伊橋 淳子 組 〈福 岡〉 [三段の部] 松本 葉子・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 優秀賞 西原 正人・玉田 治三 組 〈愛 媛〉 [二段の部] 出渕 靖志・亀井 洋祐 組 〈兵 庫〉 優秀賞 山口 宣信・小寺 夏美 組 〈北海道〉 [初段の部] 谷口 桃子・堀江 亮介 組 〈広 島〉 優秀賞 古賀 重治・大塚 睦男 組 〈福 岡〉

回数	期日・場所	第 一 位
第35回	平成20年10月19日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[七段の部] 河崎 清二・白石 武志 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 久田 孝博・平原 喜孝 組 〈神奈川〉 [五段の部] 住吉美代子・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 増渕 徳造・関 展秀 組 〈茨 城〉 [三段の部] 上村 崇幸・原田 大 組 〈奈 良〉 優秀賞 藤田潤三郎・藤田ほずみ 組 〈大 阪〉 [二段の部] 浅井 康孝・柴田佳菜子 組 〈北海道〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉 [初段の部] 田村 浩志・三戸部良太 組 〈北海道〉 優秀賞 古賀 悠紀・佐古 勝久 組 〈兵 庫〉
第36回	平成21年10月18日(日) 横須賀アリーナ (神奈川県)	[七段の部] 河崎 清二・白石 武志 組 〈愛 媛〉 [六段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [五段の部] 住吉美代子・宗像 純子 組 〈北海道〉 [四段の部] 増渕 徳造・関 展秀 組 〈茨 城〉 [三段の部] 横川 生敏・横川 賀代 組 〈高 知〉 優秀賞 佐倉 康隆・谷口 裕基 組 〈広 島〉 [二段の部] 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 優秀賞 古賀 重治・宮原 芳樹 組 〈福 岡〉 [初段の部] 三戸部良太・猿川 剛史 組 〈北海道〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉
第37回	平成22年10月17日(日) 東京武道館 (東京都)	[七段の部] 小林 光雄・安田 嘉一 組 〈神奈川〉 [六段の部] 岩本 光弘・久田 孝博 組 〈神奈川〉 [五段の部] 沼田 範之・古野 耕一 組 〈北海道〉 [四段の部] 高嶋 由紀・橋口 弘美 組 〈福 岡〉 [三段の部] 老松 克博・老松美由紀 組 〈大 阪〉 優秀賞 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [二段の部] 白神 義弘・宮田 遼平 組 〈大 阪〉 優秀賞 田村 浩志・猿川 剛史 組 〈北海道〉 [初段の部] 高井 宏行・秦 葉奈子 組 〈北海道〉 優秀賞 尾原 竜生・廣畑 翔太 組 〈広 島〉
第38回	平成23年10月16日(日) 舞洲アリーナ (大阪府)	[七段の部] 平原 喜孝・時任 晴美 組 〈神奈川〉 [六段の部] 橋本 幸士・松坂 徳昌 組 〈福 岡〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 落合 毅・高鷲 強 組 〈東 京〉 [三段の部] 老松 克博・老松美由紀 組 〈大 阪〉 優秀賞 小川内泰生・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [二段の部] 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 優秀賞 三戸部良太・高井 宏行 組 〈北海道〉 [初段の部] 矢崎 貴紀・田中 健太 組 〈東 京〉 優秀賞 田村 知之・田村 尚之 組 〈和歌山〉

回数	期日・場所	第 一 位
第 39 回	平成 24 年 10 月 14 日(日) 広島県立総合体育館 (広島県)	[七段の部] 村上 直隆・村上 和繁 組 〈宮 城〉 [六段の部] 古野 耕一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [五段の部] 菊永 隆博・上出 都 組 〈北海道〉 [四段の部] 伊藤 稔・浅井 康孝 組 〈北海道〉 [三段の部] 佐々木浩史・神鷹 良 組 〈宮 城〉 優秀賞 鈴森 友真・今仲 春菜 組 〈兵 庫〉 [二段の部] 秦 葉奈子・高井 宏行 組 〈北海道〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [初段の部] 高橋 駿介・秋山 公良 組 〈東 京〉 優秀賞 佐々木 通・濱田 靖隆 組 〈奈 良〉
第 40 回	平成 25 年 10 月 6 日(日) 北海道立総合センター (北海道)	[七段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [六段の部] 古野 耕一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 荒木 正亨・磯野美佐緒 組 〈福 岡〉 [三段の部] 鈴森 友真・今仲 春菜 組 〈兵 庫〉 優秀賞 高木 誠・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [二段の部] 石井 利明・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 高木万里子・名野 まい 組 〈北海道〉 [初段の部] 中津留匠平・入沼 高史 組 〈兵 庫〉 優秀賞 佐々木壮太・本間 正彦 組 〈北海道〉
第 41 回	平成 26 年 10 月 5 日(日) 巣鴨学園ギムナシオン (東京都)	[七段の部] 工藤千代子・村田 幹子 組 〈山 形〉 [六段の部] 佐野 弘和・石田ゆき子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [四段の部] 佐々木浩史・神鷹 良 組 〈宮 城〉 [三段の部] 森島 康次・久田 真介 組 〈神奈川〉 優秀賞 高井 宏行・三戸部良太 組 〈北海道〉 [二段の部] 河原 実保・森崎 遼 組 〈広 島〉 優秀賞 高木万里子・名野 まい 組 〈北海道〉 [初段の部] 安陪龍太郎・矢野 梓葉 組 〈東 京〉 優秀賞 柿本由貴美・高倉 千聖 組 〈福 岡〉
第 42 回	平成 27 年 10 月 11 日(日) 神戸市立中央体育館 (兵庫県)	[七段の部] 宮脇 誠吾・小林 利吉 組 〈広 島〉 [六段の部] 古野 耕一・菊永 隆博 組 〈北海道〉 [五段の部] 上出 都・野澤 草太 組 〈北海道〉 [四段の部] ルーシーアーリー・清水裕子 組 〈神奈川〉 [三段の部] 森島 康文・矢崎 貴紀 組 〈神奈川〉 優秀賞 土屋 智和・佐々木 隆 組 〈神奈川〉 [二段の部] 入村 高史・中津留匠平 組 〈兵 庫〉 優秀賞 逆井 拓海・三歩 拓 組 〈東 京〉 [初段の部] 見留 勝義・堀 義典 組 〈神奈川〉 優秀賞 中村 元哉・廣瀬 時 組 〈兵 庫〉

回数	期日・場所	第 一 位
第43回	平成28年10月16日(日) 岡山県体育館 (岡山県)	[七段の部] 矢ヶ部龍一郎・鬼木 正道 組 〈福 岡〉 [六段の部] 青木はるみ・高間真智子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 野澤 草太・伊藤 稔 組 〈北海道〉 [四段の部] 高井 宏行・三戸部良太 組 〈北海道〉 [三段の部] 廣岡 猛男・廣岡 琴子 組 〈神奈川〉 優秀賞 土屋 智和・佐々木 隆 組 〈神奈川〉 [二段の部] 藤本 健一・稲吉 伸幸 組 〈福 岡〉 優秀賞 安部 祐樹・安部 保美 組 〈宮 城〉 [初段の部] 高畠 三景・小山 苑佳 組 〈兵 庫〉 優秀賞 下村美那子・木部 彩乃 組 〈北海道〉
第44回	平成29年10月8日(日) 東京武道館 (東京都)	[七段の部] 小林 利吉・高橋 伸 組 〈広 島〉 [六段の部] 佐野 弘和・石田ゆき子 組 〈神奈川〉 [五段の部] 野澤 草太・伊藤 稔 組 〈北海道〉 [四段の部] 浅井 康孝・細沼 哲也 組 〈北海道〉 [三段の部] 高木万里子・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 下田 正信・櫻井 千恵 組 〈東 京〉 [二段の部] 澤 博史・尾崎 凌介 組 〈広 島〉 優秀賞 中村 元哉・廣瀬 時 組 〈兵 庫〉 [初段の部] 小西 莉愛・村中 志優 組 〈北海道〉 優秀賞 久末 佳・阿部 将大 組 〈北海道〉
第45回	平成30年10月14日(日) 久留米総合 スポーツセンター (福岡県)	[七段の部] 高橋 伸・宮脇 誠吾 組 〈広 島〉 [六段の部] 村上 宜央・狐塚 理沙 組 〈宮 城〉 [五段の部] 森野 寛・西原 正人 組 〈愛 媛〉 [四段の部] 細沼 哲也・高木 誠 組 〈北海道〉 [三段の部] 古野 聖児・山本 直人 組 〈北海道〉 優秀賞 安藤 光佑・中村 元哉 組 〈兵 庫〉 [二段の部] 下村美那子・阿部 翔大 組 〈北海道〉 優秀賞 青木 多聞・古谷 耀 組 〈東 京〉 [初段の部] 村中 志優・竹内 奈帆 組 〈北海道〉 優秀賞 青山 玲乃・勝亦 恵未 組 〈北海道〉
第46回	令和元年10月13日(日) 横須賀アリーナ (神奈川県)	台風19号の為開催中止
第47回	令和2年10月11日(日) 埼玉県立武道館 (埼玉県)	新型コロナウイルス感染症拡大の為中止

回数	期日・場所	第 一 位
第48回	令和3年10月7日(日) 中村スポーツセンター (愛知県)	[七段の部] 古野 耕一・足立 隆宏 組 〈北海道〉 [六段の部] 伊藤 稔・井上 廣巳 組 〈北海道〉 [五段の部] 森島 康文・矢崎 貴紀 組 〈神奈川〉 [四段の部] 長谷川澄子・磯部友紀恵 組 〈神奈川〉 [三段の部] 石川 祐貴・石川 幸範 組 〈神奈川〉 優秀賞 福田 百花・山田みなみ 組 〈神奈川〉 [二段の部] 松田 武尊・谷口 剛 組 〈兵 庫〉 優秀賞 前田 達矢・鍋田 共志 組 〈東 京〉 [初段の部] 安藤 昂佳・平野 恭平 組 〈兵 庫〉 優秀賞 国保 怜・平賀 友大 組 〈愛 知〉
第49回	令和4年10月16日(日) 静岡県武道館 (静岡県)	[七段の部] 宮脇 誠吾・矢鋪 祐司 組 〈広 島〉 [六段の部] 老松美由紀・渡邊ロマン 組 〈大 阪〉 [五段の部] 森島 康文・矢崎 貴紀 組 〈神奈川〉 [四段の部] 本間 正彦・下村美那子 組 〈北海道〉 [三段の部] 竹内 奈帆・小西 莉愛 組 〈北海道〉 優秀賞 新島 邦行・臼田麻由美 組 〈静 岡〉 [二段の部] 高橋あゆみ・佐川ともえ 組 〈北海道〉 優秀賞 樋口由香里・前田 敏行 組 〈北海道〉 [初段の部] サラニーマン・藤井 義隆 組 〈広 島〉 優秀賞 佐藤 元康・後藤麻裕子 組 〈東 京〉
第50回	令和5年10月15日(日) 横浜武道館 (神奈川県)	[七段の部] 組 〈 〉 [六段の部] 組 〈 〉 [五段の部] 組 〈 〉 [四段の部] 組 〈 〉 [三段の部] 組 〈 〉 優秀賞 組 〈 〉 [二段の部] 組 〈 〉 優秀賞 組 〈 〉 [初段の部] 組 〈 〉 優秀賞 組 〈 〉

全日本剣道連盟ならびに地方代表団体一覧

(会長名・事務局所在地・電話番号・FAX番号)

令和5年6月27日現在

全日本剣道連盟	北の丸事務所	102-0091	東京都千代田区北の丸公園2-3 日本武道館内	TEL 03(3211)5804	FAX (3211)5807
会長 網代忠宏	九段事務所	102-0074	東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル2階	TEL 03(3234)6271	FAX (3234)6007
地方代表団体	会 長	〒	事 務 局 所 在 地	電 話	F A X
(一財)北海道剣道連盟	武 田 牧 雄	062-0905	札幌市豊平区豊平5条11-1-1 北海道立総合体育センター内	011(820)1662・1663	(820)1662・1663
青森県 "	増 田 知 幸	038-0059	青森市大字油川字中道19-6	017(787)2485	(787)2485
秋田県 "	小 松 誠	011-0945	秋田市土崎港西5-11-10	018(838)1783	(845)3255
山形県 "	安 部 美 知 雄	990-0025	山形市あこや町3-1-28	023(625)4825	(625)4826
岩手県 "	小 笠 原 宏 志	020-0122	盛岡市みたけ3-38-20 (一財)岩手県青少年会館内	019(645)2220	(645)2220
(一財)宮城県 "	井 上 雅 勝	982-0845	仙台市太白区門前町2-1	022(746)8461	(746)8462
福島県 "	長 谷 川 弘 一	960-0102	福島市鎌田字町23 サラダハウスA101号	024(597)8218	(597)8218
(一財)茨城県 "	水 田 重 則	310-0903	水戸市堀町1161-13	029(251)8811	(255)6228
栃木県 "	白 石 正 範	320-0066	宇都宮市駒生1-1-6 栃木県教育会館2階	028(624)4567	(627)4001
群馬県 "	小 林 一 隆	371-0047	前橋市関根町3-27-12	027(235)0870	(235)0870
(公財)埼玉県 "	栗 原 憲 一	330-0074	さいたま市浦和区北浦和5-6-5 浦和合同庁舎4階	048(834)8869	(834)8879
(一財)東京都 "	千 葉 胤 道	105-0004	港区新橋4-24-2	03(5405)2166	(5405)3680
(一財)千葉県 "	忍 足 功	263-0024	千葉市稲毛区穴川2-3-20	043(285)4331	(285)4333
神奈川県 "	小 林 英 雄	221-0835	横浜市内神奈川区鶴屋町2-17-1 相鉄・岩崎学園ビル307号	045(321)6175	(321)6176
山梨県 "	渡 邊 宏 一	409-3804	中央市井之口150-2	055(278)6162	(278)6163
(一財)新潟県 "	荻 莊 誠	950-0982	新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル2階	025(384)4784	(384)4794
(一財)石川県 "	南 信 廣	920-0811	金沢市小坂町西57-3 KSハイッ205号	076(253)0310	(253)0341
(一財)富山県 "	大 門 進	939-8076	富山市太郎丸2-77 伊勢税理士事務所内	076(492)4040	(423)6087
(一財)福井県 "	片 山 外 一	910-0015	福井市二の宮2-24-18 サンライズ二の宮 1-B	0776(28)6616	(28)6616
(一財)長野県 "	加 瀬 浩 明	380-0844	長野市諏訪町503	026(237)8939	(235)8266
(一財)静岡県 "	二 橋 高 弘	420-0822	静岡市葵区宮前町355	054(263)5428	(263)8367
(一財)愛知県 "	大 嶽 將 文	453-0035	名古屋市市中村区十王町11-22	052(481)0093	(481)0095
岐阜県 "	堤 俊 彦	500-8384	岐阜市藪田南1-11-12 岐阜県水産会館611	058(274)1521	(274)8949
三重県 "	中 森 博 文	514-0007	津市大谷町152 大谷ハイム1-202号	059(226)5975	(229)7407
(一財)滋賀県 "	中 野 正 堂	524-0022	守山市守山4-7-20 辻田ビル2階	077(514)3165	(514)3178
(一財)京都府 "	伊 吹 文 明	606-8392	京都市左京区聖護院山王町19	075(761)8288	(761)8287
(公社)大阪府 "	長 榮 周 作	530-0044	大阪市北区東天満2-8-1 若杉センタービル別館502号	06(6351)3345	(6351)3346
(一財)奈良県 "	吉 田 克 法	630-8115	奈良市大宮町5-3-14 不動ビル505号	0742(32)5008	(32)5011
和歌山県 "	世 耕 弘 成	640-8329	和歌山市田中町5-4-2	073(432)7760	(432)7759
(公財)兵庫県 "	神 谷 明 文	657-0838	神戸市灘区王子町1-2-8 虹ヶ池ハイッ201号	078(861)5145	(802)5240
(一財)岡山県 "	藤 田 長 久	700-0826	岡山市北区磨屋町1-1	086(235)3255	(235)3245
(一財)広島県 "	田 中 秀 和	730-0014	広島市中区上幟町1-5	082(962)3076	(962)3087
(一財)山口県 "	中 西 章	753-0083	山口市後河原237-1 警察体育館別館内	083(932)5072	(932)5073
(一財)鳥取県 "	岸 田 芋	680-0036	鳥取市川端3-216 瀧本ビル3階	0857(29)2668	(29)2668
島根県 "	高 木 弘 伸	690-0883	島根県松江市北田町47-1 鬼村純方	0852(27)6222	0852(27)6222
香川県 "	三 原 悦 男	760-0033	高松市丸の内4-6 アラキビル2階南	087(880)4463	(880)4467
(一財)愛媛県 "	俊 野 徹 人	790-0952	松山市朝生田町5-3-28 福泉ビル205号	089(941)9394	(941)3013
高知県 "	渡 邊 三 則	781-5102	高知市大津甲2009-34	090-1009-6857	
徳島県 "	藤 川 和 秋	770-0861	徳島市住吉3-9-6 栗本マンション106号	088(652)2337	(652)2360
(公社)福岡県 "	青 柳 俊 彦	810-0052	福岡市中央区大濠1-1-1 福岡武道館内	092(712)1890	(712)1891
佐賀県 "	川 上 春 生	849-0923	佐賀市日の出2-1-11 佐賀県スポーツ会館	0952(33)7184	(20)9888
(一財)長崎県 "	灰 谷 達 明	850-0036	長崎市五島町5-34 トーカンマンション1-E	095(826)5220	(826)5220
(一財)大分県 "	三 浦 悟	870-0820	大分市西大道1-1-76 第2ハルキコーポ101号	097(547)9980	(547)9981
(一財)熊本県 "	尾 方 正 照	862-0950	熊本市中央区水前寺5-23-2 熊本武道館内	096(381)8998	(381)8998
宮崎県 "	橋 口 光 博	880-2102	宮崎市大字有田371-4	0985(62)3890	(62)3893
鹿児島県 "	俣 木 正 喜	890-0062	鹿児島市与次郎1-4-20 県立武道館内	099(255)8778	(255)8778
(一財)沖縄県 "	親 川 光 俊	900-0026	那覇市奥武山町51-2 沖縄県体協スポーツ会館501号	098(859)0410	(996)4616

全 剣 連 発 行 の 頒 布 物 一 覧

頒布物名	価 格	重量 (g)	厚さ (mm)
剣道試合・審判規則	¥400	66	3
剣道試合・審判・運営要領の手引き	¥200	43	2
FIK 剣道試合・審判規則 (和英版)	¥1,000	140	5
居合道試合・審判規則	¥500	55	3
杖道試合・審判規則	¥500	58	3
称号・段級位審査規則	¥400	81	3
日本剣道形解説書	¥200	93	2
日本剣道形解説書 (英語版)	¥900	240	5
居合解説	¥250	74	3
居合解説 (英語版)	¥500	79	3
杖道解説	¥500	186	7
杖道解説 (英語版)	¥900	183	7
剣道指導要領	¥2,900	554	7
剣道指導要領 (英語版)	¥3,400	858	11
剣道指導の手引き【二刀編】	¥1,000	144	2
剣道和英辞典 (第3版)	¥2,100	283	14
剣道社会体育教本 (改訂版)	¥2,100	664	13
剣道医学Q & A (第3版)	¥2,100	785	15
剣道医学救急ハンドブック (第3版)	¥500	97	4
剣士のためのアンチ・ドーピングマニュアル(第二刷)	¥300	90	3
剣道講習会資料	¥500	310	8
木刀による剣道基本技稽古法	¥500	175	2
木刀による剣道基本技稽古法 (英語版)	¥700	173	2

頒布物名	価 格	重量 (g)	厚さ (mm)
剣道用具の保守・管理 (英語版)	¥400	69	3
剣道学科審査の問題例と解答例 (初段～五段)	¥500	175	3
剣道授業の展開 (DVD 付き)	¥1,000	346	7
絵図と写真に見る剣道文化史	¥2,500	627	11
木刀による剣道基本技稽古法 DVD	¥3,600	92	15
居合 DVD (英語版)	¥3,100	93	15
剣道人バッジ ネジ	¥1,600	13	16
剣道人バッジ タック	¥1,600	13	16
カフス・タイピン (真鍮パー)	¥6,100	66	30
FIK バッジ (ネジ・タック)	各¥1,100	19	18
男子審判用ネクタイ	¥2,000	58	16
女子審判用ネクタイ	¥1,500	52	9
竹刀検査用基準器 ゲージ1 (先革先端部最小直径計測用)	¥4,600	55	3
竹刀検査用基準器 ゲージ2 (ちくとう対角計測用)	¥4,600	55	3
竹刀検査用基準器 検査台 (ちくとう対角計測用)	¥9,800	510	25
竹刀検査用基準器セット	¥18,000	620	28
ぶしし手ぬぐい (白・紺・黄・あずき)	各¥500	38	4
ぶししクリアファイル (5枚セット)	¥500	127	2
ぶししステッカーシート	¥200	8	1
ぶししアイロンワッペン	¥700	1	3
ぶししぬいぐるみ	¥4,000	256	210
設立七十周年記念出版「全剣連と剣道界の十年の歩み」	¥2,500	980	28

*品物はすべて消費税込みとなります。

*全日本剣道連盟の頒布物販売は、心力舎企画(株)に委託しております。

『購入申し込み方法』

(1) インターネットからのお申し込み……<https://zenkenren-shop.com>

(2) F A Xでのお申し込み…心力舎企画株式会社 03-3451-6905 へF A Xして下さい。

①品物名、②数量、③支払い方法、④発送方法、⑤氏名、⑥住所、⑦電話番号、⑧F A X番号をご記入下さい。

お支払い金額 (品物代金+送料) を記入したご注文確認のF A Xを返信いたしますので、お支払い手続きをお願いいたします。

◎お支払い方法 (②以外の手数料はお客様ご負担をお願いいたします。)

①代金引換、②クレジットカード決済、③銀行振込、④郵便振替

◎発送方法・送料 (送料は、ご注文の際にお知らせいたします。)

①宅 配 便…送料はお申し込み品物の重量・お届け地域によって異なります。また、離島・一部地域は、別途中継手数料が発生します。

②メール便…(この場合、代金引換はご利用いただけません。)

全国一律、500円で、A4サイズ(厚さ20mmまで)の品物の配送に利用いただけます。

* オンラインショップのホームページをご利用いただくと品物の合計代金と送料が自動計算されます。

全日本剣道連盟 広報誌

月刊 剣窓

—— 剣道人 必読の書 ——

月刊『剣窓』は、剣道人および剣道に関心をお持ちの方々に、剣道に関する情報を提供するものです。

日頃の稽古や講習など、さまざまな活動の場において、互いに情報を共有していれば指導しやすく、また学びやすい——切磋琢磨する剣士の実用書として是非ご活用ください。

主な内容

各界人による巻頭コラム「剣筆」／全剣連の動き、各専門委員会の活動報告／全剣連が関与する各大会の記録、観戦記・総評／大会・審査会・講習会などの行事予告、要項／称号・段位（六段以上）審査合格者、審査員寸評／五段審査合格者／国際剣道に関する情報、海外派遣報告／講習会などの講話および指導内容の要旨／随筆、寄稿、歴史読物など

〈年間購読料(12回分) 税・送料込 3,300円〉

お申し込み

お申し込みは、随時受け付けております。所定の郵便払込取扱票にて、お振り込みください。お手元に所定の郵便払込取扱票が無い場合は、最寄りの郵便局備え付けの郵便払込取扱票に、次の口座番号「00100-9-116250」ならびに加入者名「全日本剣道連盟」をご記入の上、お手続きください。

また、オンラインショップでもお求めいただけます。

<https://zenkenren-shop.com/kenso/>

お問い合わせ

全日本剣道連盟九段事務所

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-14 靖国九段南ビル 2 階

電話 03(3234)6271 FAX 03(3234)6007

全剣連ホームページ・アドレス

<https://www.kendo.or.jp/>

私たちは《剣道》を応援しています



トヨタ自動車株式会社

